

平成 25 年度  
逗子市環境基本計画の改訂に係る市民等意識調査  
報告書

平成 25 年 7 月  
逗子市



## 【目次】

1. 調査概要 .....	1
(1) 調査目的 .....	1
(2) 調査方法、調査対象者及び回収状況 .....	1
(3) 調査期間 .....	1
2. 意識調査結果 .....	3
(1) 市民意識調査結果 .....	3
① 回答者属性 .....	3
② 逗子市の環境への意識について .....	10
③ 環境問題への意識について .....	22
④ 環境への取り組み状況について .....	29
⑤ 逗子市の将来の環境について .....	33
⑥ 意見・要望等 .....	40
(2) 事業者意識調査結果 .....	41
① 回答者属性 .....	41
② 環境への取り組み状況について .....	43
③ 逗子市の将来の環境について .....	53
④ 意見・要望等 .....	58
(3) 小中学生意識調査結果 .....	59
① 回答者属性 .....	59
② 環境への意識について .....	61
3. 総括 .....	68
資料編 .....	71



## 1. 調査概要

### (1) 調査目的

本調査は、市民の環境への意識や環境活動の実施状況等を把握することにより、平成11年3月に策定した「逗子市環境基本計画」の改訂のための基礎資料として活用するとともに、新たな計画において、市の環境施策等に意見等を反映させることを目的として実施したものです。なお、調査の実施に際しては、計画策定当時の市民意識の変化を把握できるよう配慮しました。

また、本調査では、市内小中学生及び市内事業者を対象とする意識調査も実施し、計画の改訂に反映できるようにしました。

### (2) 調査方法、調査対象者及び回収状況

本調査は、郵送によるアンケート調査票の送付・回収方式により実施しました（小中学生は市の直接配布・回収による）。調査対象者及び調査方法は、以下の通りです。

【調査対象者及び回収状況】

調査対象	市民	事業者	小学生／中学生
抽出元	住民基本台帳	逗子市商工会議所名簿	市立小中学校8校 小学校：5校（5年生） 中学校：3校（2年生）
抽出方法	18歳以上の男女より 無作為抽出	無作為抽出	対象学年の児童/生徒 全て
調査方法	郵送による配布・回収 （無記名）	郵送による配布・回収 （無記名）	市による配布・回収 （無記名）
調査数	2,700	300	876
回収数	1,241	106	851
回収率	46.0%	35.3%	97.1%

※アンケート調査票に全く回答の無かったものは無効票として集計の対象外とした。

### (3) 調査期間

平成25年5月30日（木）から6月14日（金）の約2週間

## 1. 調査概要

### 【報告書の読み方】

- 本報告書では、市民・事業者・小中学生別の意識調査結果を掲載しています。
- 調査結果の分析は、単純集計結果を基本としています。
- 平成 10 年度に実施した市民意識調査の質問項目（※1）と共通する質問については、本調査と過去の調査結果の比較（各設問単位で、○印をタイトルに表記）を掲載しています。
- 市民・事業者・小中学生別に、属性（年齢、居住地区など）ごとの特徴を把握するため、クロス集計を行い、有効な結果が得られたもの（各設問単位で、●印をタイトルに表記）を掲載しています（※2）。
- 全ての集計結果の詳細は、資料編に単純集計表、経年比較表、クロス集計表（調査対象別・属性別）として掲載しています。（意識調査結果は全て％で表記。回答数等（n）の詳細は資料編に掲載）。

※1. 逗子市では、平成 10 年に「逗子市環境基本計画」の策定にあたり、市民意識調査（以下、「平成 10 年度調査」と表記。）を実施しています。本調査においては、15 年前における調査結果との比較（経年比較）ができるよう、可能な範囲で共通の質問項目を設定しました。

※2. 市民・事業者・小中学生のクロス集計では、市民以外で有効な結果が得られませんでした。事業者・小中学生のクロス集計結果は、資料編に掲載しています。

## 2. 意識調査結果

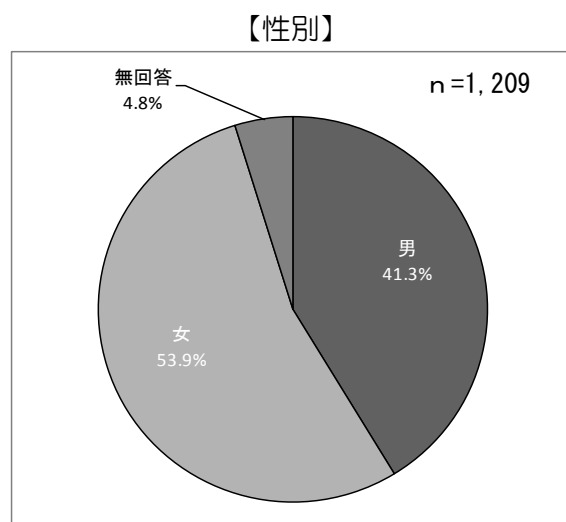
### (1) 市民意識調査結果

#### ① 回答者属性

- 男性よりも女性の回答者数がやや多くなっています。
- 平成 10 年度調査と比べて、「70 歳以上」の回答者が増加しており、回答者の年齢層が高くなっています。
- 家族形態は、半数近くが「二世帯（親子等）」となっています。平成 10 年度調査と比べて、「三世帯（親子、孫等）」の割合が減少しています。
- 住居形態は、「持ち家一戸建て」が3分の2を占め、居住年数は、「21 年以上」が最も多く、半数以上を占めています。

#### 1) 性別

回答者は、「男」が41.3%、「女」が53.9%となっており、女性の割合が男性よりも高くなっています。



#### ○ 平成 10 年度調査との比較

本調査結果と平成 10 年度調査結果を比較すると、回答者の性別に、ほとんど変化はみられません。

【性別（平成 10 年度調査との比較）】

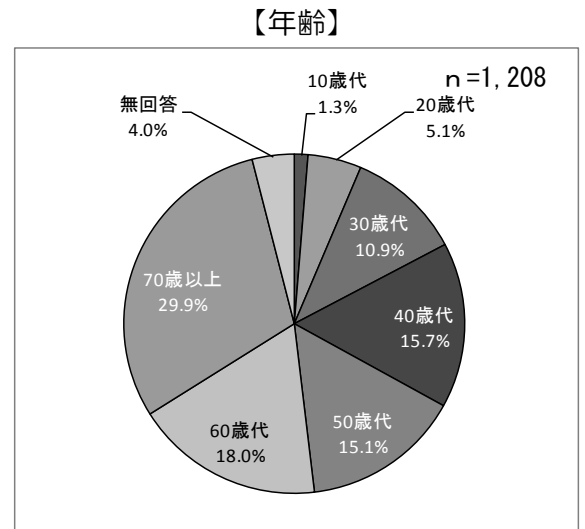
項目	H25	H10	H10 年度調査との比較※
男	41.3%	42.4%	-1.1%
女	53.9%	54.6%	-0.7%
無回答	4.8%	3.1%	1.7%

※各設問における平成 25 年度調査結果の割合（%）と平成 10 年度調査結果の割合（%）の差を求め、比較を行っている（以下、同様）。

## 2. 意識調査結果

### 2) 年齢

回答者における年齢層ごとの割合は、「70歳以上」が29.9%で、最も高く、次に高い「60歳代」の18.0%と合わせると、およそ半数を占めており、年齢層が比較的高い傾向となっています。「40歳代」から「50歳代」は、15%程度、「30歳代」は10.9%、「20歳代」は5.1%、「10歳代」は1.3%と、若い年齢層になるほど、回答者に占める割合が少なくなっています。



#### ○ 平成10年度調査との比較

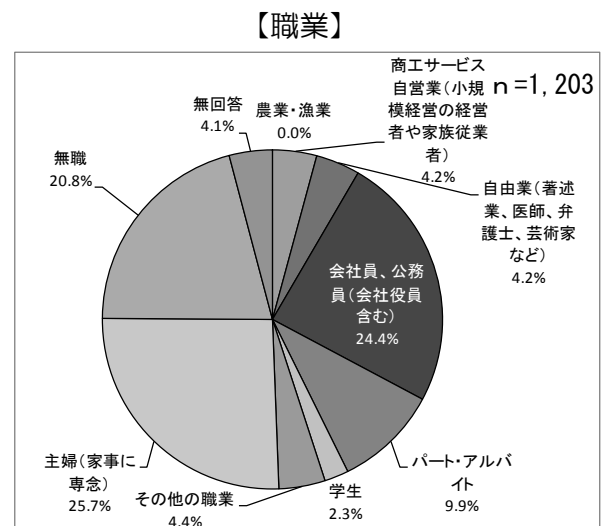
本調査結果と平成10年度調査結果を比較すると、回答者の年齢層は、「20歳代」と「50歳代」でいずれも5%程度減少しており、「70歳以上」の回答者が12.3%増加しています。

【年齢（平成10年度調査との比較）】

項目	H25	H10	H10年度調査との比較
10歳代	1.3%	1.4%	-0.1%
20歳代	5.1%	10.3%	-5.2%
30歳代	10.9%	12.5%	-1.6%
40歳代	15.7%	13.7%	2.0%
50歳代	15.1%	20.2%	-5.1%
60歳代	18.0%	21.6%	-3.6%
70歳以上	29.9%	17.6%	12.3%
無回答	4.0%	2.7%	1.3%

### 3) 職業

回答者の職業は、「主婦（家事に専念）」が25.7%で最も高く、次いで、「会社員、公務員（会社役員含む）」が24.4%、「無職」が20.8%と続いています。





○ 平成 10 年度調査との比較

本調査結果と平成 10 年度調査結果を比較すると、回答者の職業は、全体的に大きな変化はありませんが、「会社員、公務員（会社役員含む）」の回答者が 5.9%減少し、「パート・アルバイト」と「無職」が若干増加しています。

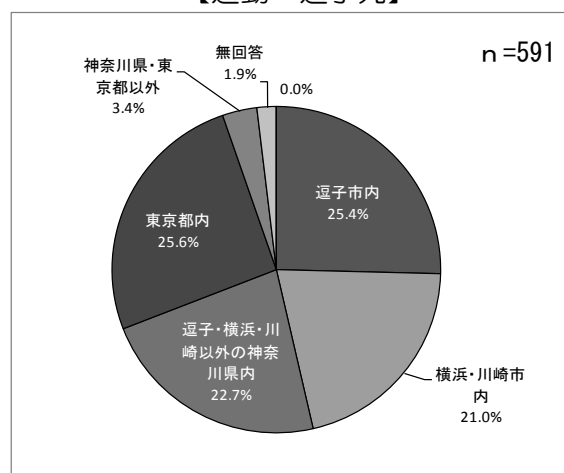
【職業（平成 10 年度調査との比較）】

項目	H25	H10	H10 年度調査との比較
農業・漁業	0.0%	0.0%	0.0%
商工サービス自営業（小規模経営の経営者や家族従業者）	4.2%	4.8%	-0.6%
自由業（著述業、医師、弁護士、芸術家など）	4.2%	2.7%	1.5%
会社員、公務員（会社役員含む）	24.4%	30.3%	-5.9%
パート・アルバイト	9.9%	7.3%	2.6%
学生	2.3%	3.5%	-1.2%
その他の職業	4.4%	3.3%	1.1%
主婦（家事に専念）	25.7%	26.6%	-0.9%
無職	20.8%	18.6%	2.2%
無回答	4.1%	2.9%	1.2%

4) 通勤・通学先

回答者の通勤・通学先は、「逗子市内」、「逗子・横浜・川崎以外の神奈川県内」及び「東京都内」が、それぞれ 25%前後を占めており、「横浜・川崎市内」も 21.0%と比較的高くなっています。

【通勤・通学先】



○ 平成 10 年度調査との比較

本調査結果と平成 10 年度調査結果を比較すると、回答者の通勤・通学先は、「逗子市内」と「横浜・川崎市内」といった比較的近隣への通勤・通学者がやや減少し、「東京都内」を通勤・通学圏とする回答者が 8.5%増加しています。

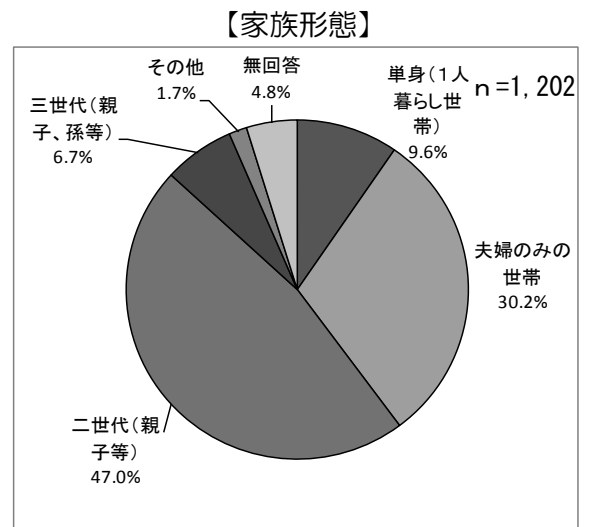
## 2. 意識調査結果

【通勤・通学先（平成 10 年度調査との比較）】

項目	H25	H10	H10 年度調査との比較
逗子市内	25.4%	30.1%	-4.7%
横浜・川崎市内	21.0%	24.5%	-3.5%
逗子・横浜・川崎以外の神奈川県内	22.7%	20.7%	2.0%
東京都内	25.6%	17.1%	8.5%
神奈川県・東京都以外	3.4%	2.8%	0.6%
無回答	1.9%	4.9%	-3.0%

### 5) 家族形態

回答者の家族形態は、「二世代（親子等）」が47.0%で全体の半数近くを占めており、次いで、「夫婦のみの世帯」が30.2%、「単身（1人暮らし世帯）」が9.6%となっています。



#### ○ 平成 10 年度調査との比較

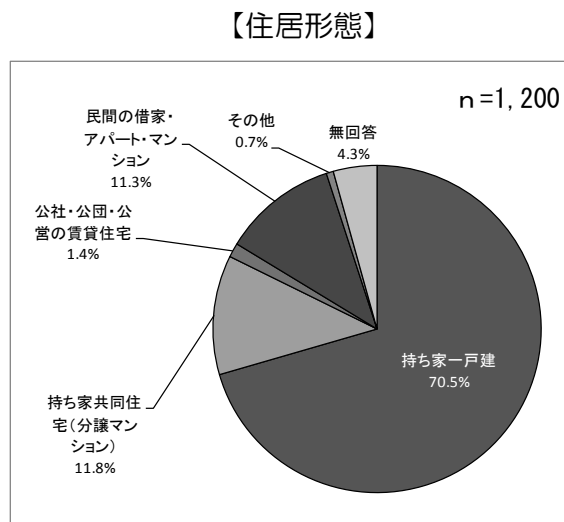
本調査結果と平成 10 年度調査結果を比較すると、回答者の家族形態は、「三代（親子、孫等）」が 7.1%減少し、「単身（1人暮らし世帯）」や「夫婦のみの世帯」などが増加しています。

【家族形態（平成 10 年度調査との比較）】

項目	H25	H10	H10 年度調査との比較
単身（1人暮らし世帯）	9.6%	6.1%	3.5%
夫婦のみの世帯	30.2%	23.8%	6.4%
二世代（親子等）	47.0%	44.4%	2.6%
三代（親子、孫等）	6.7%	13.8%	-7.1%
その他	1.7%	6.9%	-5.2%
無回答	4.8%	5.0%	-0.2%

6) 住居形態

回答者の住居形態は、「持ち家一戸建」が70.3%と、全体の3分の2以上を占めています。そのほか、「持ち家共同住宅（分譲マンション）」が11.8%、「民間の借家・アパート・マンション」が11.3%、「民間の借家・アパート・マンション」が11.3%となっています。



○ 平成10年度調査との比較

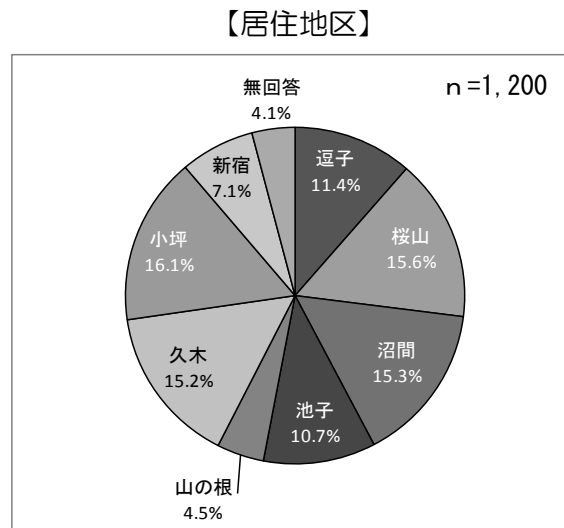
本調査結果と平成10年度調査結果を比較すると、回答者の住居形態は、「公社・公団・公営の賃貸住宅」が7.8%減少し、「民間の借家・アパート・マンション」が10.2%増加しています。

【住居形態（平成10年度調査との比較）】

項目	H25	H10	H10年度調査との比較
持ち家一戸建	70.5%	71.1%	-0.6%
持ち家共同住宅（分譲マンション）	11.8%	13.1%	-1.3%
公社・公団・公営の賃貸住宅	1.4%	9.2%	-7.8%
民間の借家・アパート・マンション	11.3%	1.1%	10.2%
その他	0.7%	1.8%	-1.1%
無回答	4.3%	3.7%	0.6%

7) 居住地区

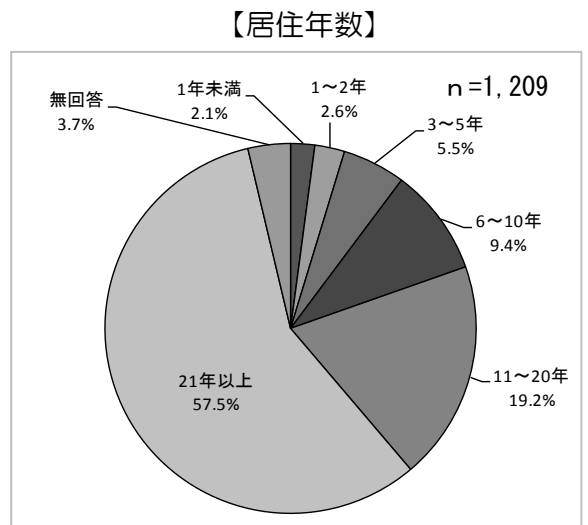
回答者の居住地区は、「桜山」地区、「沼間」地区、「久木」地区、「小坪」地区が、それぞれ15%程度の割合であり、次いで、「逗子」地区と「池子」地区がそれぞれ10%強、「新宿」地区が7.1%、「山の根」地区が4.5%となっています。



## 2. 意識調査結果

### 8) 居住年数

回答者の逗子市での居住年数は、「21年以上」が57.5%と、全体の半数以上を占めています。次いで、「11～20年」が19.2%、「6～10年」が9.4%の順となっています。居住年数が比較的長い回答者が多く、居住年数が5年に満たない回答者は全体の10%程度となっています。



#### ○ 平成10年度調査との比較

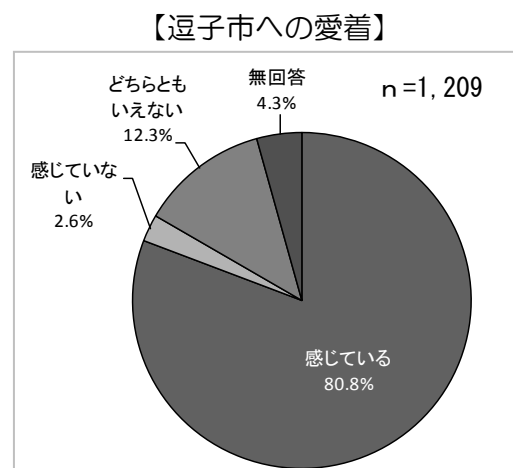
本調査結果と平成10年度調査結果を比較すると、回答者の居住年数は、「11～20年」が4.3%増加し、居住年数が、「5年未満」と「21年以上」の回答者が、それぞれ若干減少しています。

【居住年数（平成10年度調査との比較）】

項目	H25	H10	H10年度調査との比較
1年未満	2.1%	3.4%	-1.3%
1～2年	2.6%	3.8%	-1.2%
3～5年	5.5%	6.4%	-0.9%
6～10年	9.4%	7.3%	2.1%
11～20年	19.2%	14.9%	4.3%
21年以上	57.5%	60.4%	-2.9%
無回答	3.7%	3.7%	0.0%

### 9) 逗子市への愛着

回答者が感じる逗子市の愛着について、愛着を「感じている」という回答が80.8%で大部分を占めています。愛着を「感じていない」という回答は、全体の2.6%となっています。



○ 平成 10 年度調査との比較

本調査結果と平成 10 年度調査結果を比較すると、回答者の逗子市への愛着の度合には、大きな変化はみられません。

【逗子市への愛着（平成 10 年度調査との比較）】

項目	H25	H10	H10 年度調査との比較
感じている	80.8%	78.7%	2.1%
感じていない	2.6%	2.6%	0.0%
どちらともいえない	12.3%	14.9%	-2.6%
無回答	4.3%	3.9%	0.4%

## 2. 意識調査結果

### ② 逗子市の環境への意識について

#### 1) 身近な環境への意識

##### 【質問文（問2）】

逗子市の身近な環境について、あなたはどの程度満足していますか。また、平成10年度調査頃と比べてどのように変わったと思いますか。それぞれの項目について、あてはまる番号1～5の中からaとbのそれぞれ1つずつ選び、○をつけてください。

#### a) 現在の評価（身近な環境への満足度）

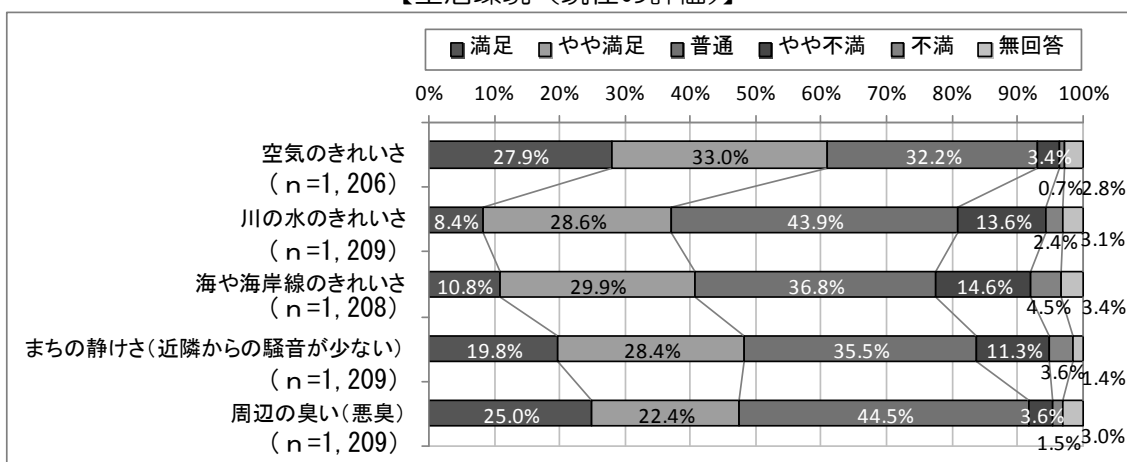
- 生活環境と自然環境に関する満足度が高く、都市環境に関する満足度が低くなっています。
- 平成10年度調査結果と比べると、ほとんどの項目の満足度が向上しています。

逗子市の身近な環境に関する市民の満足度について、生活環境、自然環境、都市環境、環境活動の4つの分野で質問しました。

#### i) 生活環境

『空気のきれいさ』に関する満足度（「満足」と「やや満足」の合計）が、60.9%で最も回答が多くなっています。次いで、『まちな静けさ（近隣からの騒音が少ない）』と『周辺の臭い（悪臭）』といった身近な生活の場に関し、満足度は50%近くと高くなっています。『川の水のきれいさ』と『海や海岸線のきれいさ』の水辺に関する満足度は40%前後であり、そのほかの項目と比較して、満足度はやや低くなっています。

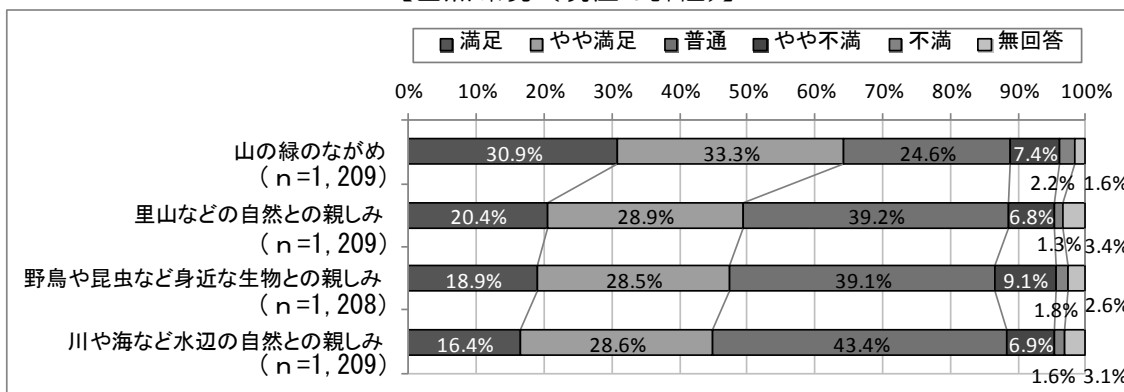
【生活環境（現在の評価）】



ii) 自然環境

『山の緑のながめ』に関する満足度が、64.2%で最も多く、そのほかの項目についても、50%近くとなっています。

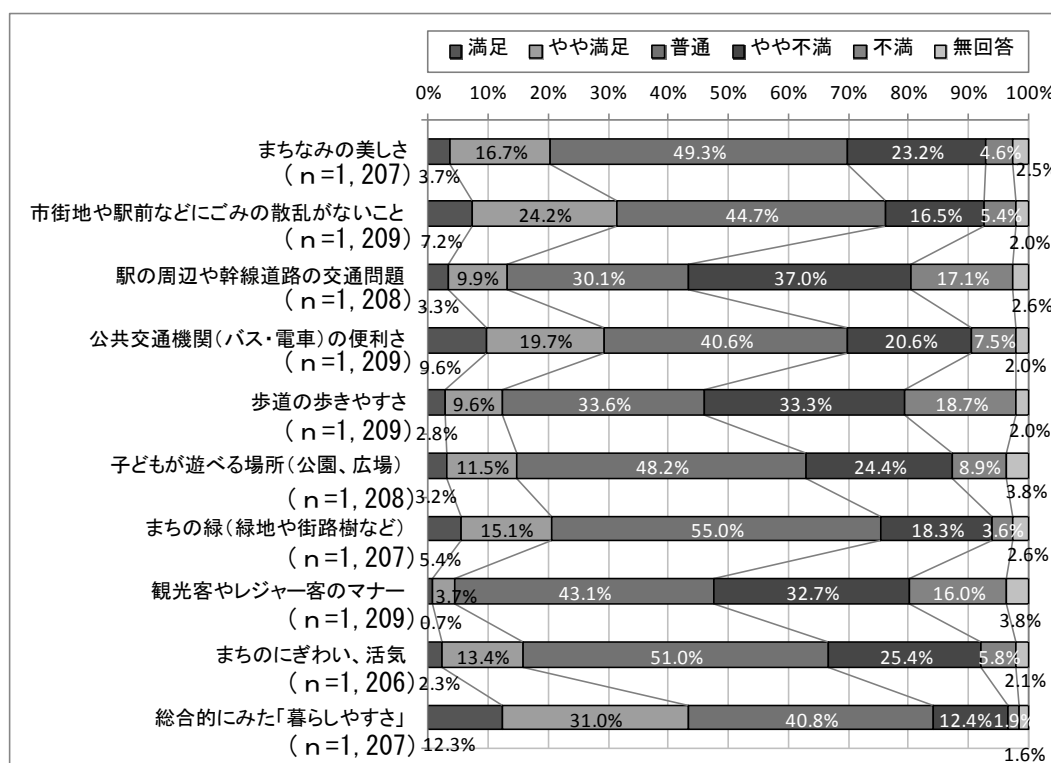
【自然環境（現在の評価）】



iii) 都市環境

『総合的にみた「暮らしやすさ」』に関する満足度が、43.3%で最も回答が多くなっていますが、そのほかの項目は、『市街地や駅前などにごみの散乱がないこと』と『公共交通機関（バス・電車）の便利さ』を除き、満足度はいずれも30%を下回っています。都市環境に関する不満度（「やや不満」と「不満」の合計）についてみると、『駅の周辺や幹線道路の交通問題』、『歩道の歩きやすさ』及び『観光客やレジャー客のマナー』に関し、50%前後が不満に感じているという回答となっています。

【都市環境（現在の評価）】

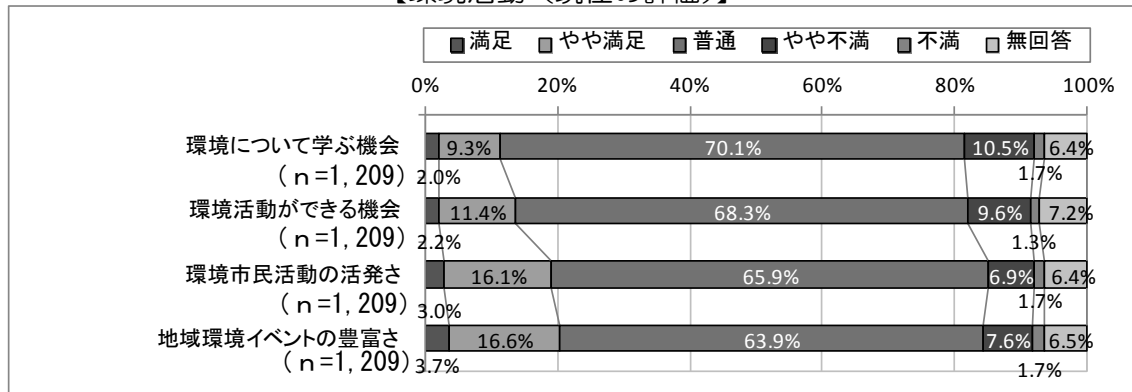


## 2. 意識調査結果

### iv) 環境活動

環境活動についてみると、『環境市民活動の活発さ』と『地域環境イベントの豊富さ』に関する満足度が20%程度となっています。

【環境活動（現在の評価）】



### ○ 平成10年度調査との比較

本調査結果と平成10年度調査結果について、環境への満足度（「満足」＋「やや満足」）を比較すると、『川や海など自然との親しみ』、『公共交通機関（バス・電車）の便利さ』については、満足度が25%前後増加しています。

そのほかの項目については、全体的にみて、満足度が10%前後向上しているものが増えています。

満足度が減少している項目としては、『歩道の歩きやすさ』と『駅の周辺や幹線道路の交通問題』が挙げられます。

【環境活動（平成10年度調査との比較）】

項目	H25	H10	H10年度調査との比較
空気のきれいさ	60.9%	50.2%	10.7%
川の水のきれいさ	37.0%	19.8%	17.2%
海や海岸線のきれいさ	40.7%	22.3%	18.4%
まちの静けさ（近隣からの騒音が少ない）	48.2%	37.4%	10.8%
山の緑のながめ	64.2%	44.3%	19.9%
野鳥や昆虫など身近な生物との親しみ	47.4%	34.3%	13.1%
川や海など水辺の自然との親しみ	45.0%	18.7%	26.3%
まちなみの美しさ	20.4%	10.3%	10.1%
市街地や駅前などにごみの散乱がないこと	31.4%	19.5%	11.9%
駅の周辺や幹線道路の交通問題	13.2%	15.2%	-2.0%
公共交通機関（バス・電車）の便利さ	29.3%	5.0%	24.3%
歩道の歩きやすさ	12.4%	20.9%	-8.5%
子どもが遊べる場所（公園、広場）	14.7%	10.6%	4.1%
観光客やレジャー客のマナー	4.4%	1.5%	2.9%
まちなみにぎわい、活気	15.7%	7.1%	8.6%
総合的にみた「暮らしやすさ」	43.3%	32.2%	11.1%



- 年代別（3区分）クロス集計

身近な環境への満足度について、年代別（30歳代未満・40歳～50歳代・60歳以上の3区分）でみた場合、上述の単純集計及び平成10年度調査結果との比較において、特徴的な結果が得られた事項に関し、以下に挙げた項目以外、年代間による明確な差はほとんどみられませんでした。

年代間の差異がみられたものとして、『観光客やレジャー客のマナー』において、若い世代になるほど不満度（「やや不満」と「不満」の合計）が高くなっています。『子どもが遊べる場所（公園、広場）』についても、同様の傾向がみられます。

【観光客やレジャー客のマナー（年代別クロス集計）】

年代	満足＋ やや満足	普通	やや不満＋ 不満	無回答
全体	4.4%	43.1%	48.7%	3.8%
30歳代未満	2.9%	35.7%	61.4%	0.0%
40歳～50歳代	3.2%	33.8%	62.5%	0.5%
60歳以上	5.7%	52.5%	34.9%	6.9%

【子どもが遊べる場所（公園、広場）（年代別クロス集計）】

年代	満足＋ やや満足	普通	やや不満＋ 不満	無回答
全体	14.7%	48.2%	33.3%	3.8%
30歳代未満	17.1%	41.4%	41.5%	0.0%
40歳～50歳代	13.4%	47.9%	38.4%	0.3%
60歳以上	14.9%	50.4%	27.9%	6.8%

- 地区別クロス集計

身近な環境への満足度を地区別でみた場合、上述の単純集計及び平成10年度調査結果との比較で特徴的な結果が得られた事項に関しては、以下に挙げた項目以外、地区別による明確な差はほとんどみられませんでした。

『公共交通機関（バス・電車）の便利さ』については、池子地区の満足度が他の地区と比べて突出して高く、51.0%となっています。不満度についてみると、沼間地区が50.2%となっており、他の地区と比べて突出して高く、逗子地区、池子地区及び、山の根地区では、不満度は比較的低くなっています。

『観光客やレジャー客のマナー』については、逗子地区及び新宿地区の不満度が65%以上と、他の地区と比べて高い割合を示しています。

その他、『子どもが遊べる場所（公園、広場）』については、池子地区において満足度が32.6%で、他の地区と比べて高い割合を示しており、『まちなぎわい、活気』については、全体的には「普通」という回答が半数前後を占めていますが、その中で、山の根地区及び新宿地区の不満度については、15%前後と、他の地区と比べて比較的低くなっています。一方で、沼間地区は、不満度が45.9%と、高い割合を示しています。

2. 意識調査結果

【公共交通機関（バス・電車）の便利さ（地区別クロス集計）】

地区	満足+ やや満足	普通	やや不満+ 不満	無回答
全体	29.3%	40.6%	28.1%	2.0%
逗子	38.4%	44.9%	13.8%	2.9%
桜山	28.7%	45.2%	24.5%	1.6%
沼間	14.1%	34.6%	50.2%	1.1%
池子	51.0%	31.8%	15.6%	1.6%
山の根	31.0%	56.2%	12.8%	0.0%
久木	22.8%	43.5%	32.1%	1.6%
小坪	31.5%	34.0%	33.5%	1.0%
新宿	29.1%	48.8%	19.8%	2.3%

【観光客やレジャー客のマナー（地区別クロス集計）】

地区	満足+ やや満足	普通	やや不満+ 不満	無回答
全体	4.4%	43.1%	48.7%	3.8%
逗子	2.9%	28.3%	65.9%	2.9%
桜山	3.7%	40.5%	54.2%	1.6%
沼間	6.0%	57.8%	33.5%	2.7%
池子	6.2%	54.2%	36.5%	3.1%
山の根	7.3%	41.8%	47.3%	3.6%
久木	4.3%	39.2%	50.0%	6.5%
小坪	3.1%	49.0%	43.3%	4.6%
新宿	4.7%	25.6%	67.4%	2.3%

【子どもが遊べる場所（公園、広場）（地区別クロス集計）】

地区	満足+ やや満足	普通	やや不満+ 不満	無回答
全体	14.7%	48.2%	33.3%	3.8%
逗子	8.0%	45.7%	42.7%	3.6%
桜山	11.2%	49.8%	36.3%	2.7%
沼間	16.8%	51.8%	29.2%	2.2%
池子	32.6%	48.8%	16.3%	2.3%
山の根	9.1%	43.5%	41.9%	5.5%
久木	14.7%	44.5%	37.0%	3.8%
小坪	13.4%	47.5%	35.0%	4.1%
新宿	10.4%	53.5%	31.4%	4.7%

【まちのにぎわい、活気（地区別クロス集計）】

地区	満足+ やや満足	普通	やや不満+ 不満	無回答
全体	15.7%	51.0%	31.2%	2.1%
逗子	21.8%	51.9%	24.8%	1.5%
桜山	19.7%	48.8%	30.4%	1.1%
沼間	8.6%	44.4%	45.9%	1.1%
池子	14.1%	54.6%	29.7%	1.6%
山の根	21.8%	61.8%	14.6%	1.8%
久木	10.9%	53.8%	31.5%	3.8%
小坪	15.0%	49.9%	33.0%	2.1%
新宿	22.1%	60.4%	16.3%	1.2%

## b) 過去と比べて（10年前程度）

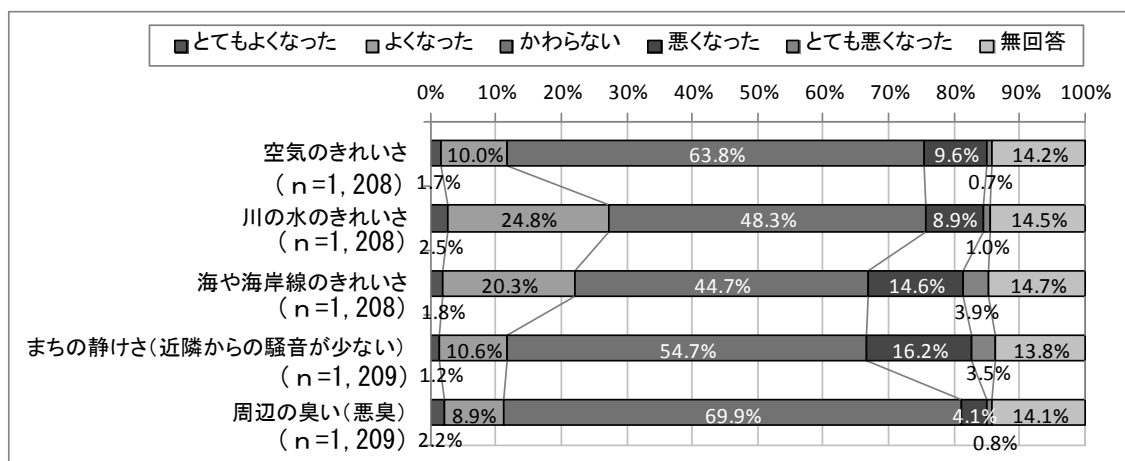
逗子市の身近な環境の現在の評価について、過去（10年前程度）と比較してどのように変わったと感じているか、生活環境、自然環境、都市環境、環境活動の4つの分野で質問しました。

- 生活環境分野の『川の水のきれいさ』、『海や海岸線のきれいさ』、都市環境の『市街地や駅前などにごみの散乱がないこと』、『公共交通機関（バス・電車）の便利さ』の4項目に関し、良くなったという評価が比較的高くなっています。
- 『山の緑のながめ』、『まちなみの美しさ』、『駅の周辺や幹線道路の交通問題』、『観光客やレジャー客のマナー』、『まちのにぎわい、活気』の5項目に関し、悪くなったという評価が比較的多くなっています。

## i) 生活環境

良くなったという評価（「とてもよくなった」と「よくなった」の合計）は『川の水のきれいさ』と『海や海岸線のきれいさ』に関して20%以上と、そのほかの項目の評価と比較して割合が高くなっています。悪くなったという評価（「悪くなった」と「とても悪くなった」の合計）は、『まちの静けさ（近隣からの騒音が少ない）』に関して約20%と、やや多くなっています。

【生活環境（10年前程度との比較）】

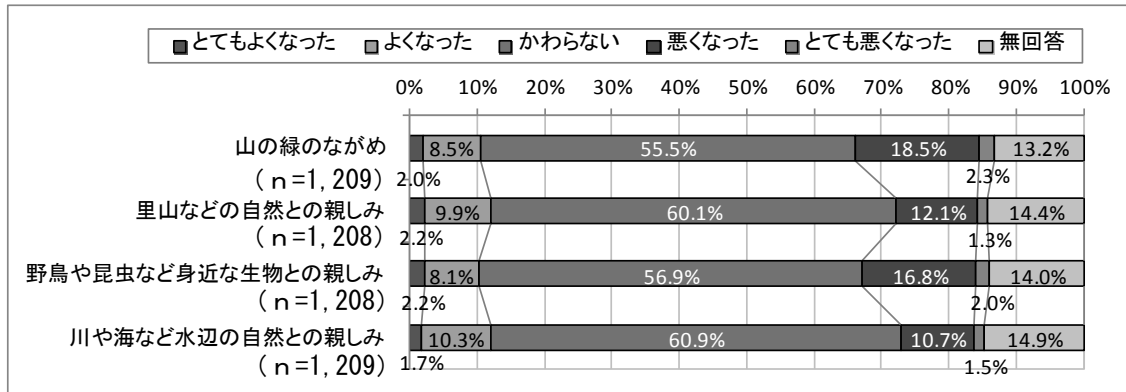


## 2. 意識調査結果

### ii) 自然環境

『山の緑のながめ』と『野鳥や昆虫など身近な生物との親しみ』に関して、悪くなったという評価が約 20%であり、そのほかの項目と比較して割合がやや高くなっています。

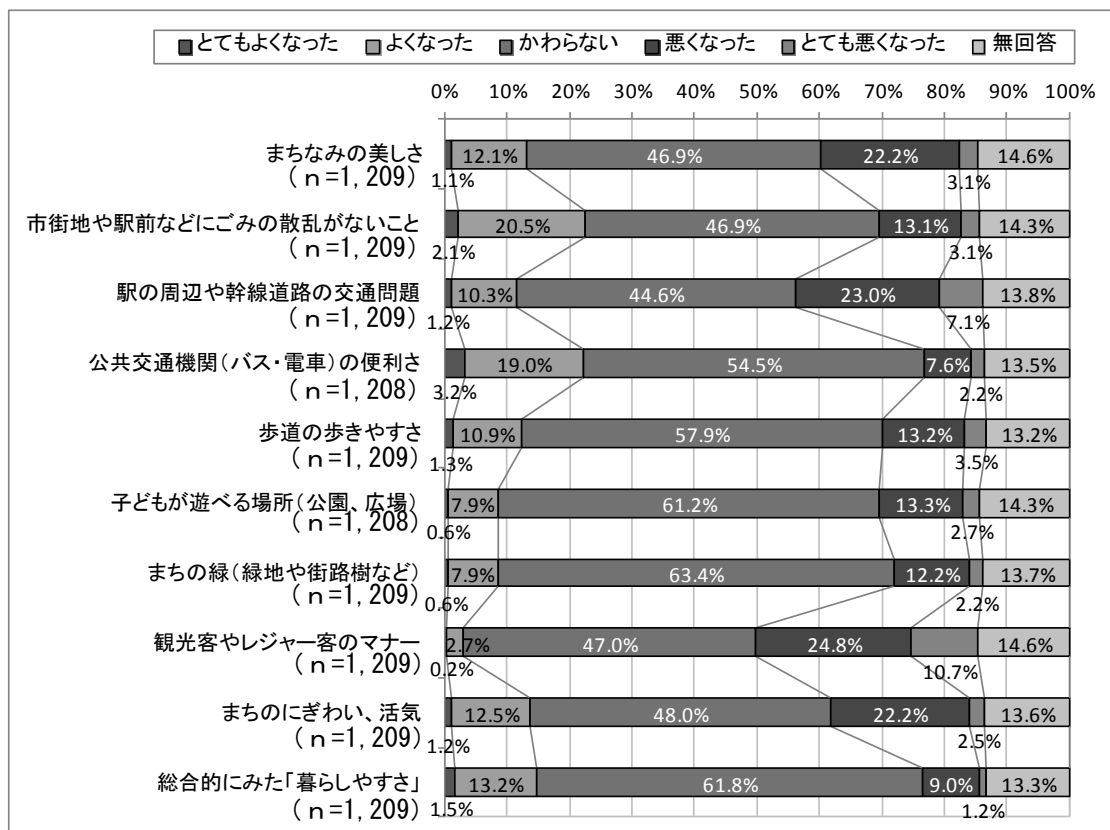
【自然環境（10年前程度との比較）】



### iii) 都市環境

『市街地や駅前などにごみの散乱がないこと』と『公共交通機関（バス・電車）の便利さ』に関して、良くなったという評価が、20%以上であり、そのほかの項目と比較して割合がやや高くなっています。悪くなったという評価では、『駅の周辺や幹線道路の交通問題』と『観光客やレジャー客のマナー』について30%を超えており、『まちなみの美しさ』と『まちなみにぎわい、活気』についても25%程度が悪くなったと評価しています。

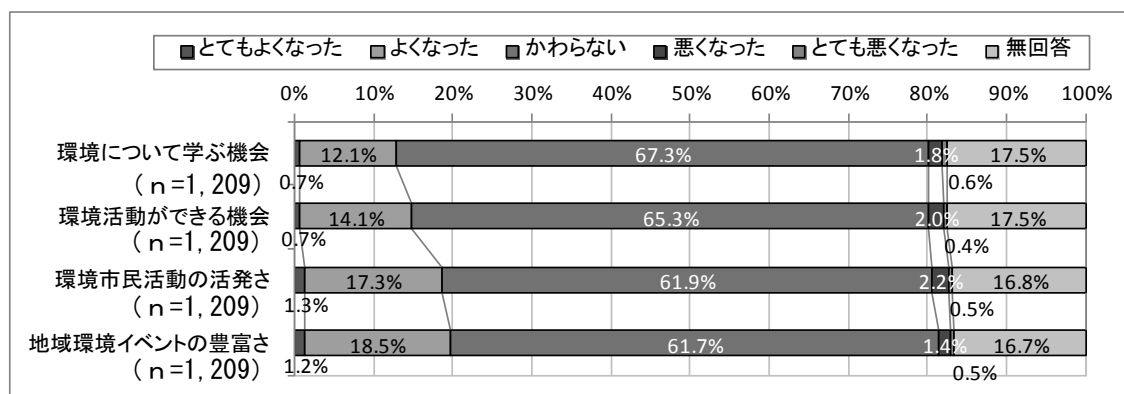
【都市環境（10年前程度との比較）】



## iv) 環境活動

『環境市民活動の活発さ』と『地域環境イベントの豊富さ』に関して、良くなったという評価が20%程度となっています。悪くなったという評価はほとんどみられませんでした。

【環境活動（10年前程度との比較）】



## ● 地区別クロス集計

逗子市の身近な環境の現在の評価について、過去と比較してどのように変わったと感じているかを地区別でみた場合、上述の単純集計及び平成10年度調査結果との比較で特徴的な結果が得られた事項に関しては、以下に挙げた項目以外、地区別による明確な差はほとんどみられませんでした。

『公共交通機関（バス・電車）の便利さ』については、全体的に「かわらない」という回答が多くなっている中で、池子地区では、良くなったという回答が48.8%であり、他の地区と比べて突出して評価が高くなっています。

『観光客やレジャー客のマナー』については、全体的に「かわらない」という回答が多くなっていますが、逗子地区及び新宿地区において、悪くなったという回答が50%前後と、他の地区と比べて高い割合を示しています。また、『まちのにぎわい、活気』については、全体的に「かわらない」という回答が多くなっていますが、新宿地区において、良くなったという回答が27.9%と、他の地区と比べて評価が高くなっています。悪くなったという評価については、沼間地区の34.6%が、他の地区と比べて高い割合を示していますが、山の根地区及び新宿地区では、15%以下と比較的低くなっています。

## 2. 意識調査結果

【公共交通機関（バス・電車）の便利さ（地区別クロス集計）】

地区	とてもよくなった+	かわらない	悪くなった+	とても悪くなった	無回答
全体	22.2%	54.5%	9.8%	13.5%	
逗子	18.2%	60.6%	4.4%	16.8%	
桜山	20.2%	61.2%	8.0%	10.6%	
沼間	10.3%	62.7%	18.4%	8.6%	
池子	48.8%	34.9%	4.7%	11.6%	
山の根	21.8%	56.3%	11.0%	10.9%	
久木	14.7%	55.9%	13.1%	16.3%	
小坪	31.5%	45.3%	9.3%	13.9%	
新宿	19.8%	56.9%	5.9%	17.4%	

【観光客やレジャー客のマナー（地区別クロス集計）】

地区	とてもよくなった+	かわらない	悪くなった+	とても悪くなった	無回答
全体	2.9%	47.0%	35.5%	14.6%	
逗子	1.4%	31.9%	52.2%	14.5%	
桜山	3.2%	42.1%	44.1%	10.6%	
沼間	4.9%	60.5%	24.3%	10.3%	
池子	3.1%	55.8%	28.7%	12.4%	
山の根	0.0%	58.3%	29.0%	12.7%	
久木	3.8%	47.8%	29.9%	18.5%	
小坪	3.6%	44.9%	34.0%	17.5%	
新宿	0.0%	36.1%	46.5%	17.4%	

【まちなぎわい、活気（地区別クロス集計）】

地区	とてもよくなった+	かわらない	悪くなった+	とても悪くなった	無回答
全体	13.7%	48.0%	24.7%	13.6%	
逗子	21.0%	45.0%	18.8%	15.2%	
桜山	13.8%	51.1%	25.5%	9.6%	
沼間	8.1%	48.1%	34.6%	9.2%	
池子	12.4%	51.9%	24.8%	10.9%	
山の根	14.5%	60.1%	14.5%	10.9%	
久木	10.3%	46.2%	26.1%	17.4%	
小坪	13.4%	45.4%	25.2%	16.0%	
新宿	27.9%	41.9%	12.8%	17.4%	

## 2) 逗子市の環境について重点的に良くして欲しいこと

### 【質問文（問3）】

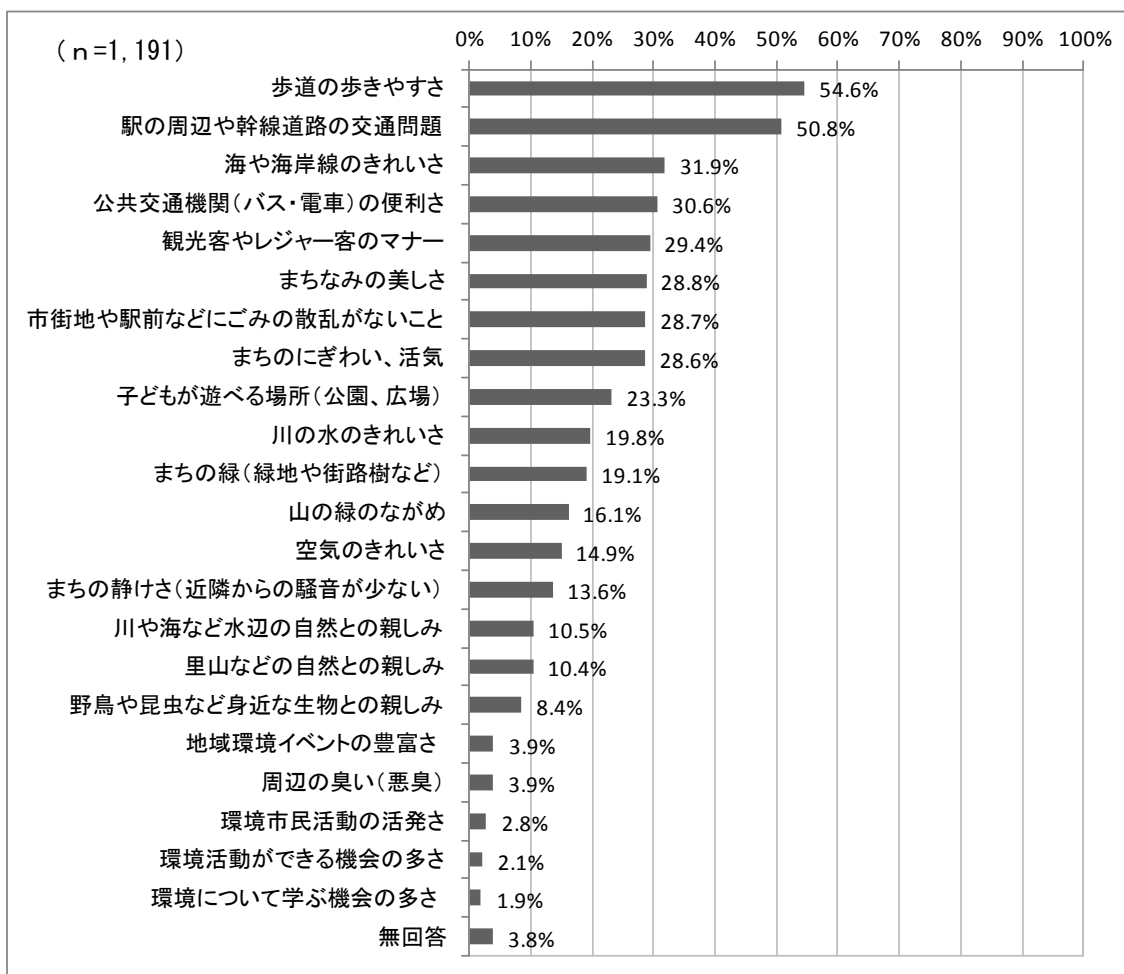
前問で挙げた22項目について（19の「総合的にみた「暮らしやすさ」を除きます）、今後、市に重点的に良くしてほしい項目はどれですか。あてはまる番号を1～22の中から5つまで**選び**、○をつけてください。

・身近な環境への満足度に関し、不満度が特に高くなった項目である『歩道の歩きやすさ』、『駅の周辺や幹線道路の交通問題』をはじめ、都市環境分野に関する事項について、改善を求める回答が多くなっています。

逗子市の環境に関し、市に重点的に良くして欲しいと望まれる項目としては、『歩道の歩きやすさ』が54.6%、『駅の周辺や幹線道路の交通問題』が50.8%と、高くなっています。次いで、『海や海岸線のきれいさ』、『公共交通機関（バス・電車）の便利さ』、『観光客やレジャー客のマナー』、『まちなみの美しさ』及び、『まちのにぎわい、活気』が、30%前後となっています。

いずれも、前述2)のa)において不満度の高い項目や、b)において悪くなったという評価の多い項目が挙げられています。

### 【市に重点的に良くして欲しいこと】



## 2. 意識調査結果

### ○ 平成 10 年度調査との比較

本調査結果と平成 10 年度調査結果について、市に重点的に良くして欲しい項目を比較すると、『歩道の歩きやすさ』と『観光客やレジャー客のマナー』は、20%以上増加しています。

そのほか、『海や海岸線のきれいさ』、『まちなみの美しさ』、『市街地や駅前などにごみの散乱がないこと』、『公共交通機関（バス・電車）の便利さ』、『まちのにぎわい、活気』といった項目についても、10%以上増加しており、主に都市環境分野などの住みよい環境の充実を求める意見が見られます。

#### 【市に重点的に良くして欲しいこと（平成 10 年度調査との比較）】

項目	H25	H10	H10 年度調査との比較
空気のきれいさ	14.9%	12.0%	2.9%
川の水のきれいさ	19.8%	14.1%	5.7%
海や海岸線のきれいさ	31.9%	21.4%	10.5%
まちの静けさ（近隣からの騒音が少ない）	13.6%	10.0%	3.6%
山の緑のながめ	16.1%	19.2%	-3.1%
野鳥や昆虫など身近な生物との親しみ	8.4%	4.8%	3.6%
川や海など水辺の自然との親しみ	10.5%	6.9%	3.6%
まちなみの美しさ	28.8%	17.1%	11.7%
市街地や駅前などにごみの散乱がないこと	28.7%	14.0%	14.7%
駅の周辺や幹線道路の交通問題	50.8%	46.9%	3.9%
公共交通機関（バス・電車）の便利さ	30.6%	17.3%	13.3%
歩道の歩きやすさ	54.6%	31.6%	23.0%
子どもが遊べる場所（公園、広場）	23.3%	15.9%	7.4%
観光客やレジャー客のマナー	29.4%	9.0%	20.4%
まちのにぎわい、活気	28.6%	12.1%	16.5%

### ● 年代別（3 区分）クロス集計

逗子市の環境に関し、市に重点的に良くして欲しいと望まれる項目について、年代別でみた場合、上述の単純集計及び平成 10 年度調査結果との比較で特徴的な結果が得られた事項に関しては、以下に挙げた項目以外、年代間による明確な差はほとんどみられませんでした。

30 歳代未満の世代において、『海や海岸線のきれいさ』、『観光客やレジャー客のマナー』に関し、40%以上が回答しており、年代が若い層になるほど、重視の割合が高くなっています。

その他に年代間の差異がみられた項目としては、『子どもが遊べる場所（公園、広場）』があり、上述と同様の傾向がみられます。また、『まちの緑（緑地や街路樹など）』については、60 歳以上の回答 25.6%で、他の世代と比べて高い割合を示しています。



【重点的に良くして欲しいこと（年代別クロス集計）】

年代	海や海岸線の きれいさ	子どもが遊べ る場所(公園、 広場)	まちの緑(緑 地や街路樹な ど)	観光客やレジ ャー客のマナ ー
全体	31.9%	23.3%	19.1%	29.4%
30歳代未満	41.5%	41.0%	11.2%	43.9%
40歳～50歳代	37.5%	22.1%	15.1%	39.6%
60歳以上	26.1%	18.5%	25.6%	18.2%

## ● 地区別クロス集計

逗子市の環境に関し、市に重点的に良くして欲しいと望まれる項目について、地区別でみた場合、上述の単純集計及び平成10年度調査結果との比較で特徴的な結果が得られた事項に関しては、以下に挙げた項目以外、年代間による明確な差はほとんどみられませんでした。

「歩道の歩きやすさ」については、山の根地区において70.9%となっており、他の地区と比べて、要望が高くなっています。また、「公共交通機関(バス・電車)の便利さ」については、沼間地区及び小坪地区の回答が40%以上で、他の地区と比べて高い割合を示しています。「観光客やレジャー客のマナー」については、逗子地区及び新宿地区で50%以上、「まちなぎわい、活気」は、沼間地区が40.3%と、それぞれの地区で要望が多くなっています。

【重点的に良くして欲しいこと（地区別クロス集計）】

地区	公共交通機関 (バス・電車) の便利さ	歩道の 歩きやすさ	観光客や レジャー客の マナー	まちな ぎわい、活気
全体	30.6%	54.6%	29.4%	28.6%
逗子	15.4%	55.9%	52.2%	21.3%
桜山	25.1%	59.6%	28.4%	31.1%
沼間	45.3%	48.6%	16.0%	40.3%
池子	33.3%	53.2%	23.0%	24.6%
山の根	16.4%	70.9%	23.6%	16.4%
久木	34.1%	60.4%	26.4%	28.0%
小坪	40.6%	47.4%	26.0%	31.8%
新宿	11.6%	53.5%	54.7%	15.1%

## 2. 意識調査結果

### ③ 環境問題への意識について

#### 1) 環境問題についての認知度および関心度

【質問文（問4）】

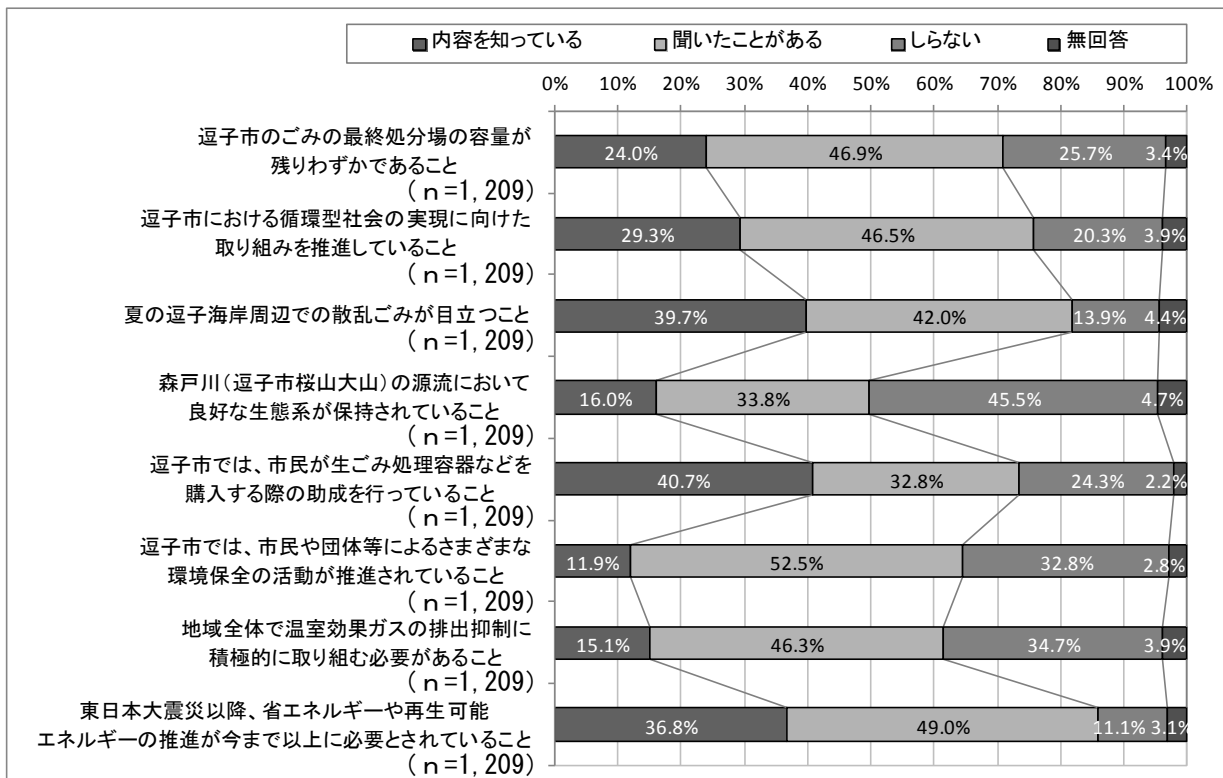
最近、テレビや新聞などで、さまざまな環境問題が取り上げられていますが、それらには逗子市とも関わりが深いものがあります。次に挙げた事柄について、あなたはご存知ですか(a)。また、その事柄について関心がありますか(b)。それぞれの項目について、あてはまる番号 1～3 の中から 1 つだけ選び、○をつけてください。

#### a) 環境問題についての認知度

- ・省エネルギーやごみなどの環境問題への認知度が高く、その他の環境問題に関しても、認知度は7割前後のものが多くなっています。
- ・平成10年度調査結果と比べて、ほとんどの項目について認知度の向上がみられます。

環境問題の認知状況については、『東日本大震災以降、省エネルギーや再生可能エネルギーの推進が今まで以上に必要とされていること』に関する認知度（「内容を知っている」と「聞いたことがある」の合計）が、85.8%で最も高く、次いで、『夏の逗子海岸周辺での散乱ごみが目立つこと』が81.7%となっています。そのほかの項目についても、認知度は、ほとんどが60%を超えています。『森戸川（逗子市桜山大山）の源流において良好な生態系が保持されていること』については、半数近くが「知らない」と回答しています。

【環境問題についての認知度】



## ○ 平成 10 年度調査との比較

本調査結果と平成 10 年度調査結果について、環境問題の認知状況（「内容を知っている」と「聞いたことがある」の合計）を比較すると、『夏の逗子海岸周辺での散乱ごみが目立つこと』が 30.5%増加しているほか、『逗子市における循環型社会形成に関する取り組み』や『市の生ごみ処理容器の助成制度』、『地域全体で温室効果ガスの排出抑制に積極的に取り組む必要があること』に関して、認知度が向上しています。

一方で、『森戸川（逗子市桜山大山）の源流において良好な生態系が保持されていること』については、認知度が 30.2%減少しており、『逗子市のごみの最終処分場の容量が残りわずかであること』についても、減少しています。

【環境問題についての認知度（平成 10 年度調査との比較）】

項目	H25	H10	H10 年度調査との比較
逗子市のごみの最終処分場の容量が残りわずかであること	70.9%	83.2%	-12.3%
逗子市では循環型社会の実現に向けた取り組みを推進していること	75.8%	64.5%	11.3%
夏の逗子海岸周辺での散乱ごみが目立つこと	81.7%	51.2%	30.5%
森戸川（逗子市桜山大山）の源流において良好な生態系が保持されていること	49.8%	80.0%	-30.2%
逗子市では、市民が生ごみ処理容器などを購入する際の助成を行っていること	73.5%	59.4%	14.1%
地域全体で温室効果ガスの排出抑制に積極的に取り組む必要があること	61.4%	50.9%	10.5%

## ● 年代別（3 区分）クロス集計

環境問題の認知状況について、年代別でみた場合、上述の単純集計及び平成 10 年度調査結果との比較で特徴的な結果が得られた事項に関しては、以下に挙げた項目以外、年代間による明確な差はほとんどみられませんでした。

『夏の逗子海岸周辺での散乱ごみが目立つこと』では、30 歳代未満及び 40 歳～50 歳代で 80%となっており、60 歳以上の世代と比較して高い割合を示しています。

その他に年代間による差異がみられた項目としては、『逗子市における循環型社会の実現に向けた取り組みを推進していること』、『逗子市では、市民が生ごみ処理容器などを購入する際の助成を行っていること』、『逗子市では、市民や団体等によるさまざまな環境保全の活動が推進されていること』及び、『地域全体で温室効果ガスの排出抑制に積極的に取り組む必要があること』があり、年齢層の高い世代ほど、認知度が高くなる傾向がみられます。

## 2. 意識調査結果

【環境問題についての認知度（年代別クロス集計）】

年代	逗子市における循環型社会の実現に向けた取り組みを推進していること	夏の逗子海岸周辺での散乱ごみが目立つこと	逗子市では、市民が生ごみ処理容器などを購入する際の助成を行っていること	逗子市では、市民や団体等によるさまざまな環境保全の活動が推進されていること	地域全体で温室効果ガスの排出抑制に積極的に取り組む必要があること
全体	74.1%	74.6%	54.2%	47.5%	62.1%
30歳代未満	65.7%	81.0%	46.7%	40.5%	51.5%
40歳～50歳代	78.3%	81.0%	52.2%	44.3%	62.4%
60歳以上	76.2%	70.1%	57.9%	52.8%	66.8%

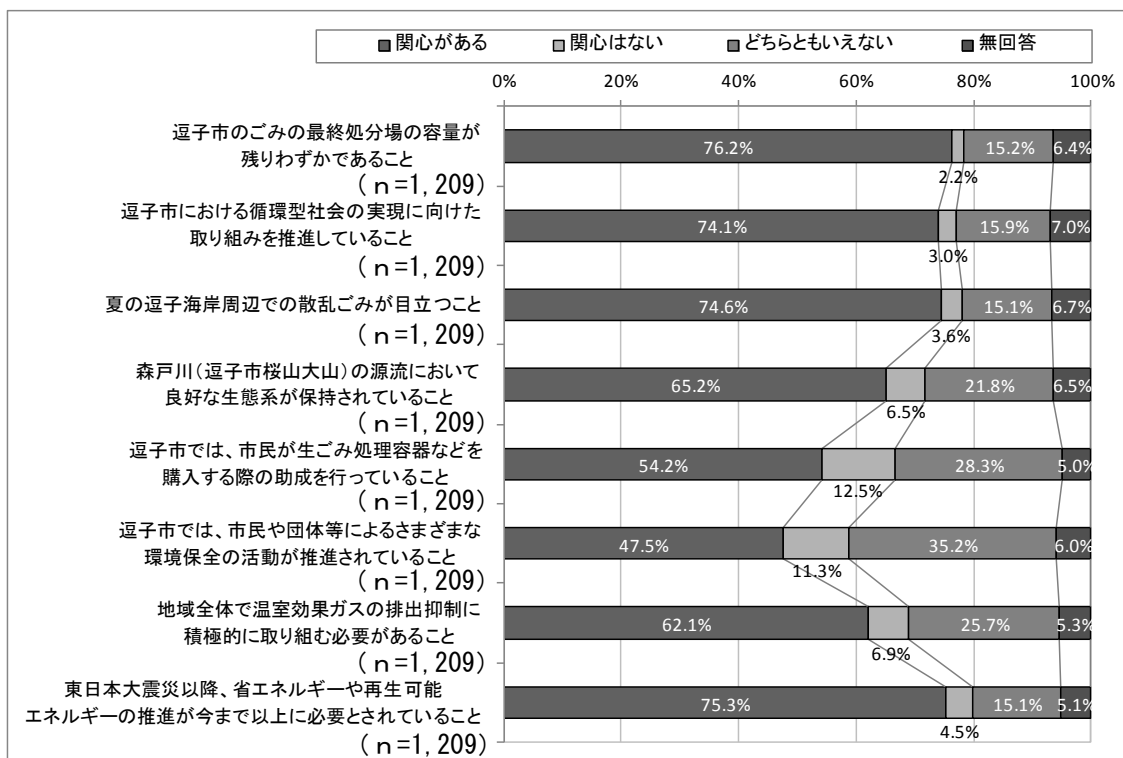
### b) 環境問題についての関心度

- ・ごみや省エネルギーに関する関心度が非常に高くなっています。
- ・平成10年度調査結果と比べて、関心度の高さは概ね高止まり傾向にあることがうかがえます。

環境問題に関する関心度については、『逗子市のごみの最終処分場の容量が残りわずかであること』、『逗子市における循環型社会の実現に向けた取り組みを推進していること』、『夏の逗子海岸周辺での散乱ごみが目立つこと』など、ごみ問題に関する事項に加え、『東日本大震災以降、省エネルギーや再生可能エネルギーの推進が今まで以上に必要とされていること』に関し、70%以上が「関心がある」と回答しており、市民生活に密接に関わる環境問題について特に関心が高くなっています。

一方、『逗子市では、市民や団体等によるさまざまな環境保全の活動が推進されていること』に対する関心度は、全ての項目の中で最も低くなっていますが、それでも半数近くが「関心がある」と回答しています。

【環境問題についての関心度】



○ 平成 10 年度調査との比較

本調査結果と平成 10 年度の調査結果について、環境問題への関心度を比較すると、全体的な関心の高さが維持されていますが、本調査で追加設定した『東日本大震災以降、省エネルギーや再生可能エネルギーの推進が今まで以上に必要とされていること』は 75.3%と高く、新たな関心事となっています。一方で、『地域全体で温室効果ガスの排出抑制に積極的に取り組む必要があること』の回答が減少した理由としては、類似の項目追加により意見が分散化したことが影響しているものと考えられます。

【環境問題についての関心度（平成 10 年度調査結果との比較）】

項目	H25	H10	H10 年度調査との比較
逗子市のごみの最終処分場の容量が残りわずかであること	76.2%	81.5%	-5.3%
逗子市における循環型社会の実現に向けた取り組みを推進していること	74.1%	75.9%	-1.8%
夏の逗子海岸周辺での散乱ごみが目立つこと	74.6%	80.0%	-5.4%
森戸川（逗子市桜山大山）の源流において良好な生態系が保持されていること	65.2%	68.2%	-3.0%
逗子市では、市民が生ごみ処理容器などを購入する際の助成を行っていること	54.2%	61.7%	-7.5%
地域全体で温室効果ガスの排出抑制に積極的に取り組む必要があること	62.1%	80.7%	-18.6%
東日本大震災以降、省エネルギーや再生可能エネルギーの推進が今まで以上に必要とされていること	75.3%	—	—

## 2. 意識調査結果

### ● クロス集計

環境問題への関心について、年代別や地区別によるクロス集計を行いました。上述の単純集計及び平成 10 年度調査結果との比較で特徴的な結果が得られた事項に関しては、明確な差はほとんどみられませんでした。

### 2) 市に重点的に取り組んでもらいたい環境問題

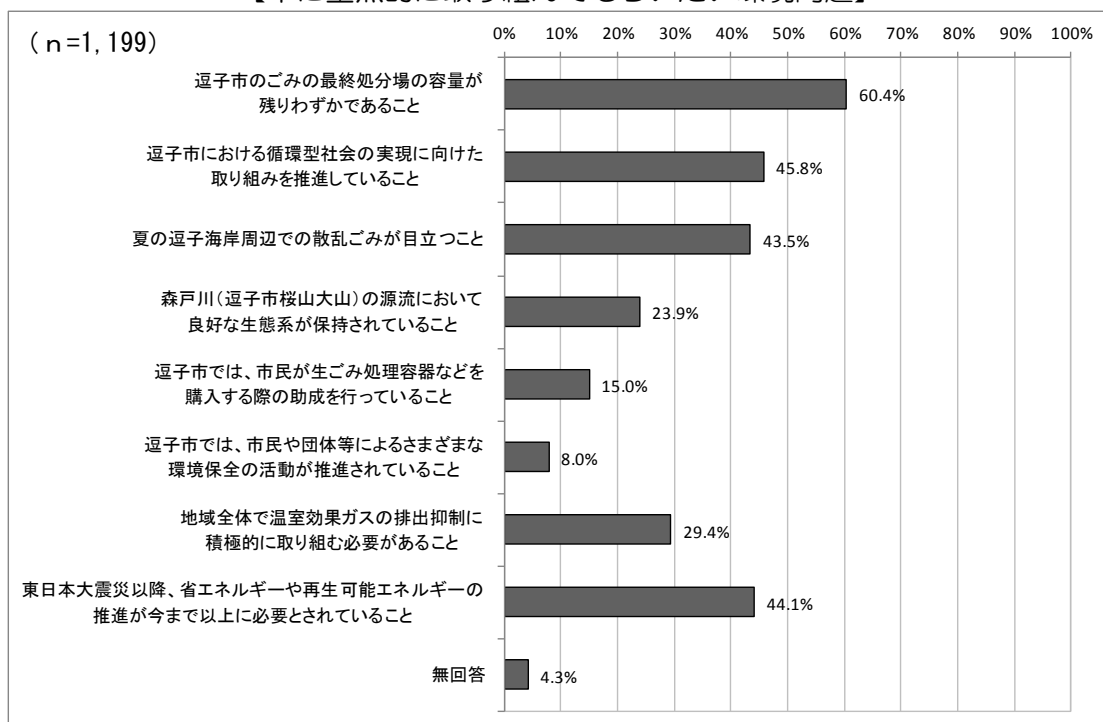
#### 【質問文（問5）】

前問で挙げた項目について、今後、市として重点的に取り組んで欲しい項目はどれですか。あてはまる番号 1～8 の中から 3 つまで選び、○で囲んでください。

- ごみ問題や省エネルギーに関する取り組みの推進が特に重視されています。
- 平成 10 年度調査結果と比べると、それぞれの環境問題を重視する割合が増加傾向にあります。

市に重点的に取り組んでもらいたい環境問題としては、『逗子市のごみの最終処分場の容量が残りわずかであること』が、60.4%と最も高くなっています。次いで、『逗子市における循環型社会の実現に向けた取り組みを推進していること』、『夏の逗子海岸周辺での散乱ごみが目立つこと』及び、『東日本大震災以降、省エネルギーや再生可能エネルギーの推進が今まで以上に必要とされていること』が、40%以上の回答となっており、前述③の1)のb)で関心の高かった項目が挙げられています。

#### 【市に重点的に取り組んでもらいたい環境問題】



## ○ 平成 10 年度調査との比較

本調査結果と平成 10 年度の調査結果について、重点的に取り組んでもらいたい環境問題を比較すると、全体に重視する割合がやや高まっていますが、順位等に大きな変動はありません。

ただし、本調査において追加設定した『東日本大震災以降、省エネルギーや再生可能エネルギーの推進が今まで以上に必要とされていること』に関し、上位に位置づけられていることから、関心の高まりがうかがえます。『地域全体で温室効果ガスの排出抑制に積極的に取り組む必要があること』の回答が減少した理由としては、類似の項目追加により意見が分散化した影響が考えられます。

【市に重点的に取り組んでもらいたい環境問題（平成 10 年度調査との比較）】

項目	H25	H10	H10 年度調査との比較
逗子市のごみの最終処分場の容量が残りわずかであること	60.4%	40.8%	19.6%
逗子市における循環型社会の実現に向けた取り組みを推進していること	45.8%	32.4%	13.4%
夏の逗子海岸周辺での散乱ごみが目立つこと	43.5%	31.3%	12.2%
森戸川（逗子市桜山大山）の源流において良好な生態系が保持されていること	23.9%	18.9%	5.0%
逗子市では、市民が生ごみ処理容器などを購入する際の助成を行っていること	15.0%	8.1%	6.9%
地域全体で温室効果ガスの排出抑制に積極的に取り組む必要があること	29.4%	35.7%	-6.3%
東日本大震災以降、省エネルギーや再生可能エネルギーの推進が今まで以上に必要とされていること	44.1%	—	—

## ● 年代別（3 区分）クロス集計

市に重点的に取り組んでもらいたい環境問題について、年代別でみた場合、上述の単純集計及び平成 10 年度調査結果との比較で特徴的な結果が得られた事項に関しては、以下に挙げた項目以外、年代間による明確な差はほとんどみられませんでした。『逗子市における循環型社会の実現に向けた取り組みを推進していること』については、年代が高くなるほど重視の割合が高くなっており、『地域全体で温室効果ガスの排出抑制に積極的に取り組む必要があること』についても、同様の傾向がみられます。また、『夏の逗子海岸周辺での散乱ごみが目立つこと』については、年代が若くなるほど、重視の割合が高くなっています。

## 2. 意識調査結果

【市に重点的に取り組んでもらいたい環境問題（年代別クロス集計）】

年代	逗子市における循環型社会の実現に向けた取り組みを推進していること	夏の逗子海岸周辺での散乱ごみが目立つこと	地域全体で温室効果ガスの排出抑制に積極的に取り組む必要があること
全体	45.8%	43.5%	29.4%
30歳代未満	36.1%	64.9%	21.2%
40歳～50歳代	41.1%	53.5%	22.8%
60歳以上	52.1%	29.0%	37.8%

### ● 地区別クロス集計

市に重点的に取り組んでもらいたい環境問題について、地区別でみた場合、上述の単純集計及び平成10年度調査結果との比較で特徴的な結果が得られた事項に関しては、『夏の逗子海岸周辺での散乱ごみが目立つこと』以外、地区別による明確な差はほとんどみられませんでした。

『夏の逗子海岸周辺での散乱ごみが目立つこと』では、認知度、関心度、市に重点的に取り組んでもらいたい環境問題のそれぞれにおいて、一定の差が現れています。認知度については、全体的にみると、「内容を知っている」と「聞いたことがある」の回答を合わせて80%前後と高い認知状況となっていますが、逗子地区及び新宿地区では、「内容を知っている」という回答が60%前後と、他の地区と比較して高い割合を示しています。関心度についても、両地区は、それぞれ84.8%と全体的に高く、市として重点的に取り組んでほしい項目としても半数以上が回答しています。

【夏の逗子海岸周辺での散乱ごみが目立つこと（地区別クロス集計）】

地区	認知度		関心度	市として重点的に取り組んで欲しい項目
	内容を知っている	聞いたことがある		
全体	39.7%	42.0%	74.6%	43.5%
逗子	56.6%	29.0%	84.8%	58.1%
桜山	38.8%	43.7%	75.1%	44.4%
沼間	33.5%	49.7%	70.2%	35.1%
池子	29.5%	45.7%	71.3%	36.7%
山の根	45.5%	34.5%	80.1%	43.6%
久木	37.0%	44.5%	72.9%	39.9%
小坪	32.5%	50.0%	74.2%	34.6%
新宿	65.2%	26.7%	84.8%	72.1%



④ 環境への取り組み状況について

1) 日常生活における環境の取り組み

【質問文（問6）】

あなたは、日常生活の中でどのようなことに気をつけて、取り組んでいますか。次の15項目について、あてはまる番号1～4の中から1つだけ選び、○をつけてください。

また、その他にも日常生活の中で気をつけていることがありましたら、自由記述欄にお書きください。

- ごみ減量やリサイクル、省エネルギーに関する取り組みの実施率が高くなっています。
- 各取り組みについて、「あまり気にしていない」という回答は少なくなっているものの、「少しは実行している」や「気にしているが実行していない」という回答が比較的多くなっています。

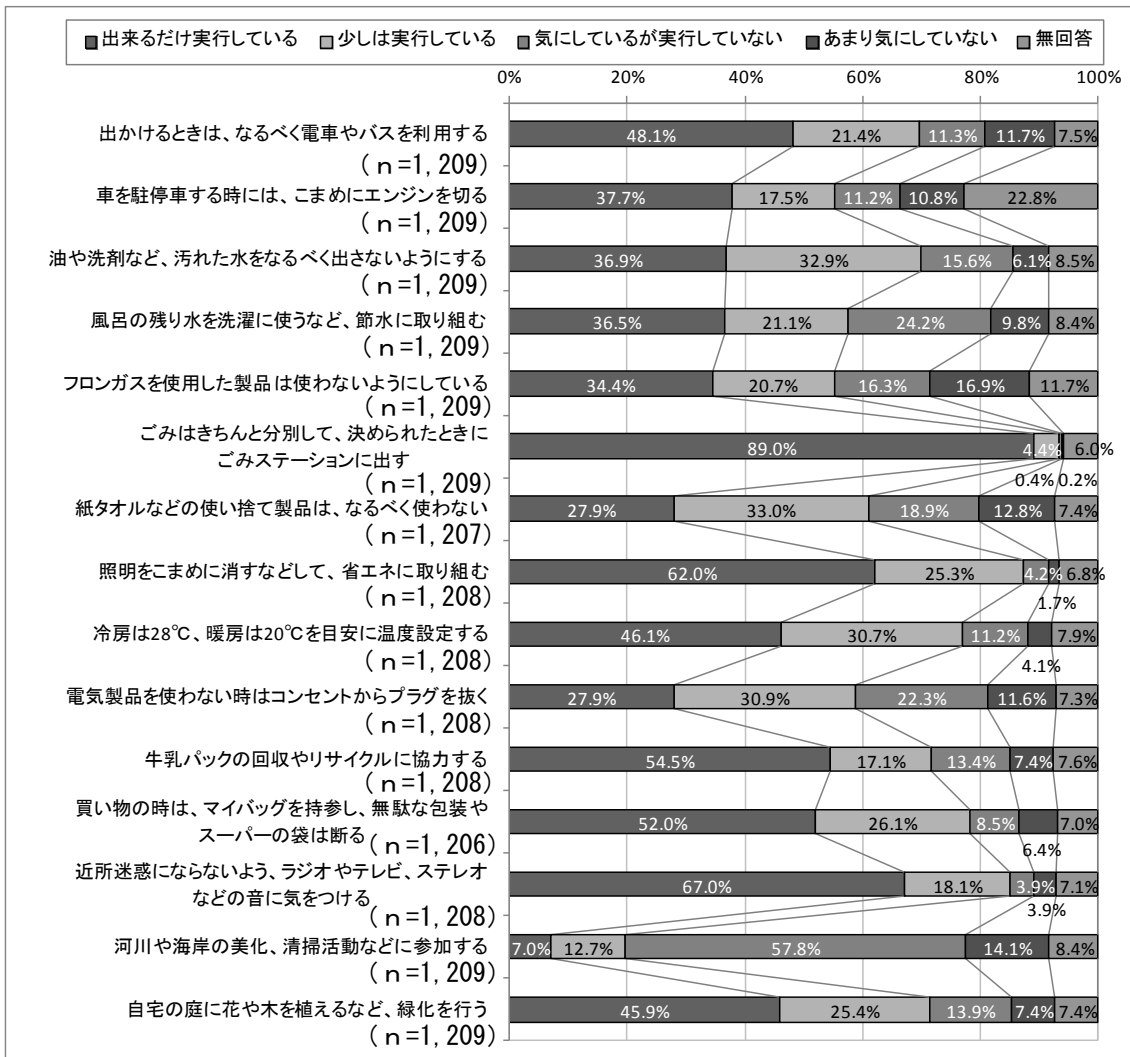
日常生活における環境への取り組み状況（「できるだけ実行している」と「少しは実行している」の合計）については、『ごみはきちんと分別して、決められたときにごみステーションに出す』が、93.4%で最も高く、次いで、『照明をこまめに消すなどして、省エネに取り組む』が87.3%、『近所迷惑にならないよう、ラジオやテレビ、ステレオなどの音に気をつける』が、85.1%で続いています。また、『買い物の時は、マイバッグを持参し、無駄な包装やスーパーの袋は断る』が78.1%、『牛乳パックの回収やリサイクルに協力する』が71.6%であり、省エネルギーの取り組みやごみの減量に関する取り組みについて、実施率が高くなっています。

なお、そのほかの取り組みについても、ほとんど半数以上が取り組んでいるという回答となっています。ただし、『河川や海岸の美化、清掃活動などに参加する』の回答割合は低く、「気にしているが実行していない」が、57.8%となっており、『風呂の残り水を洗濯に使うなど、節水に取り組む』、『電気製品を使わない時はコンセントからプラグを抜く』が、それぞれ20%以上となっています。

その他の意見としては、「夏は庭でゴーヤーのエアグリーンカーテン。」、「各企業の環境対策をネット等で調べ取り組みを確認し、どの企業の製品を買うか決めている。」、「スーパーに買物に行くとき、車になるべく近所の人を同乗させる。」等という回答がありました。

## 2. 意識調査結果

【日常生活における環境への取り組み】



### ● 年代別（3区分）クロス集計

日常生活における環境への取り組み状況について、年代別でみた場合、上述の単純集計及び平成10年度調査結果との比較で特徴的な結果が得られた事項に関しては、以下に挙げた事項以外、年代間による明確な差はほとんどみられませんでした。

年代間による差異がみられた項目としては、『出かけるときは、なるべく電車やバスを利用する』、『車を駐停車する時には、こまめにエンジンを切る』、『油や洗剤など、汚れた水をなるべく出さないようにする』、『フロンガスを使用した製品は使わないようにしている』及び、『自宅の庭に花や木を植えるなど、緑化を行う』の5項目について、「あまり気にしていない」回答をみると、若い世代ほど、割合が高くなる傾向がみられます。

【日常生活における環境の取り組み状況  
 (「あまり気にしていない」と年代別のクロス集計)】

年代	出かけるときは、なるべく電車やバスを利用する	車を駐停車する時には、こまめにエンジンを切る	油や洗剤など、汚れた水をなるべく出さないようにする	フロンガスを使用した製品は使わないようにしている	自宅の庭に花や木を植えるなど、緑化を行う
全体	11.7%	10.8%	6.1%	16.9%	7.4%
30歳代未満	24.3%	21.4%	13.8%	30.5%	18.1%
40歳～50歳代	12.9%	12.6%	7.0%	18.0%	8.3%
60歳以上	5.9%	5.9%	2.8%	11.6%	2.8%

## 2) 省エネ機器・設備の導入

【質問文(問7)】

あなたは、省エネ機器・設備の導入について、今後、どのように考えていますか。  
 あてはまる番号1～3の中から1つだけ選び、○をつけてください。

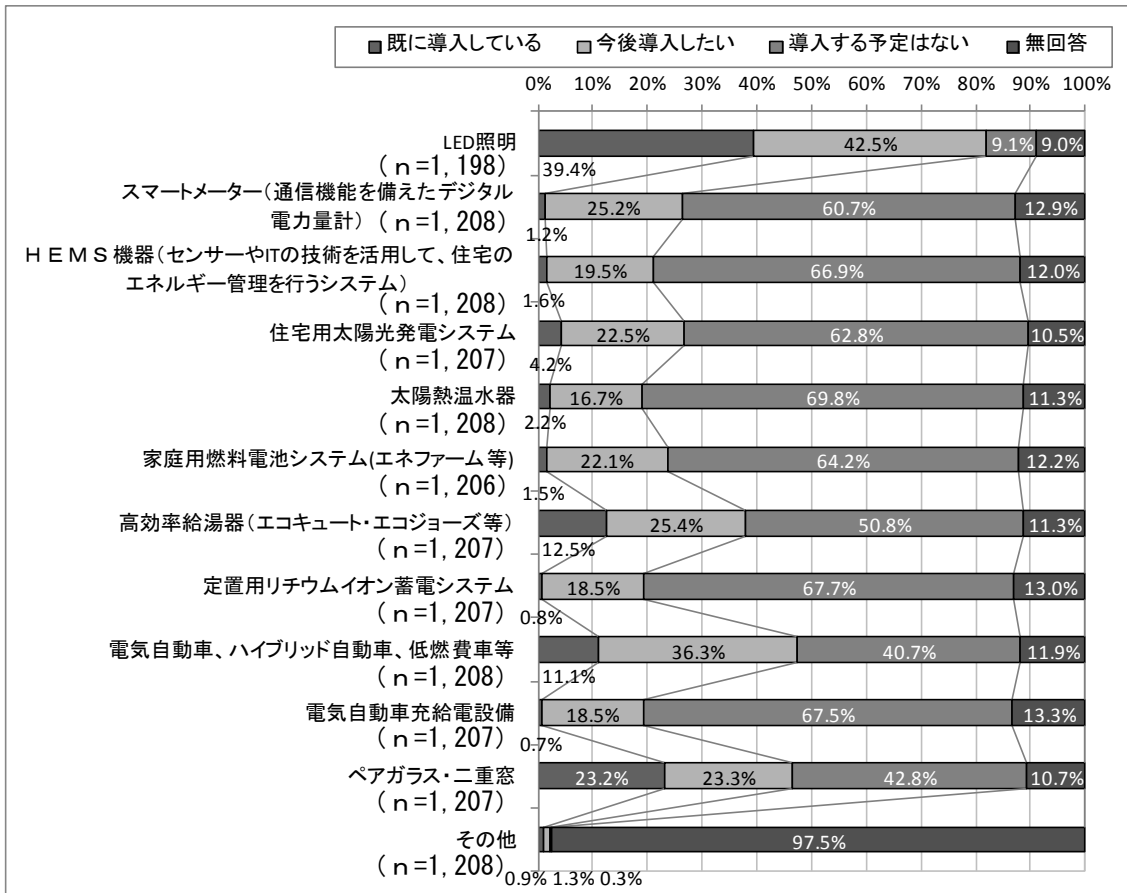
- ・『LED照明』や『ペアガラス・二重窓』の導入が比較的進んでいます。
- ・導入率が低い項目については、「今後導入したい」という回答が比較的多くなっています。

省エネルギー機器や設備の導入状況・導入意向について、『LED照明』と『ペアガラス・二重窓』に関しては、「既に導入している」という回答が、それぞれ39.4%、23.2%となっており、『高効率給湯器(エコキュート・エコジョーズ等)』と『電気自動車、ハイブリッド自動車、低燃費車等』は、それぞれ12.5%、11.1%で続いています。なお、「今後導入したい」回答が多く挙げられた項目としては、『LED照明』と『電気自動車、ハイブリッド自動車、低燃費車等』が、それぞれ42.5%、36.3%と高い割合を示しており、そのほかの機器・設備に関しても、20%前後が導入の意向を示唆しています。全体的には、一定以上の費用を伴うものが多いためか、「導入する予定はない」という回答が全体的に多くなっています。

その他の意見としては、「家電製品を省エネタイプに移行中」、「雨水貯蓄タンク」、「エアコン使用せず扇風機」、「家の断熱強化」、「高断熱高気密住宅を建てた」等という回答がありました。

## 2. 意識調査結果

### 【省エネルギー機器や設備の家庭への導入状況・導入意向】



#### ● 年代別(3区分)クロス集計

省エネルギー機器や設備の家庭への導入状況・導入意向について、年代別でみた場合、上述の単純集計及び平成10年度調査結果との比較で特徴的な結果が得られた事項に関しては、以下に挙げた事項以外、年代間による明確な差はほとんどみられませんでした。

『住宅用太陽光発電システム』、『太陽熱温水器』、『家庭用燃料電池システム(エネファーム等)定置用リチウムイオン蓄電システム』、『電気自動車、ハイブリッド自動車、低燃費車等』、『電気自動車充電設備』の6項目について、30歳代未満及び40歳～50歳代の世代で、導入ニーズが高くなっています。

#### 【省エネルギー機器・設備の導入意向(「今後導入したい」と年代別クロス集計)】

年代	住宅用太陽光発電システム	太陽熱温水器	家庭用燃料電池システム(エネファーム等)	定置用リチウムイオン蓄電システム	電気自動車、ハイブリッド自動車、低燃費車等	電気自動車充電設備
全体	22.5%	16.7%	22.1%	18.5%	36.3%	18.5%
30歳代未満	36.2%	24.3%	30.0%	23.8%	44.2%	27.6%
40歳～50歳代	27.7%	22.5%	29.8%	22.3%	50.4%	25.5%
60歳以上	14.8%	10.4%	13.9%	13.2%	25.7%	11.3%

⑤ 逗子市の将来の環境について

1) 市民・行政・事業者の環境への取り組みについて

【質問文(問8)】

次に挙げた(1)～(8)の項目の取り組み方について、あなたの考えに最も近いものの番号を1～5の中から1つだけ選び、○をつけてください。

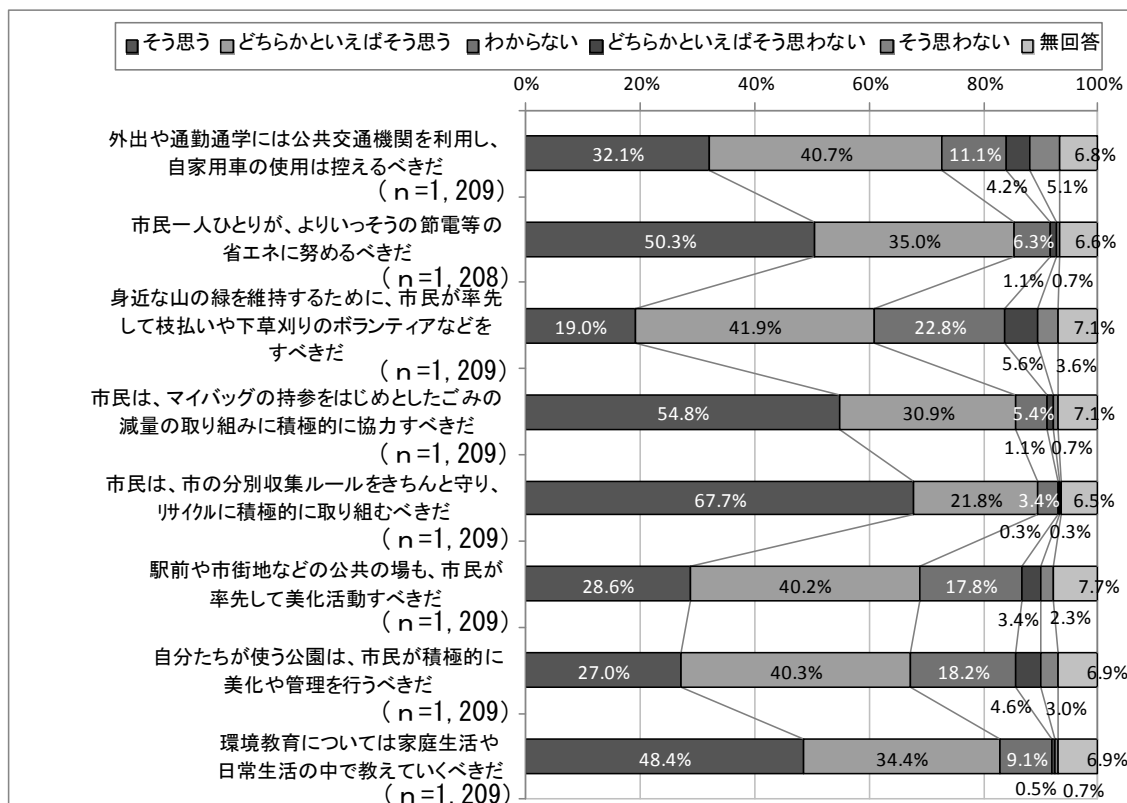
a) 市民の取り組みについて

・ごみの分別やリサイクル、省エネルギーに関する考え方を支持する回答が多くなっています。

市民の環境の取り組みに関する考え方を支持する回答(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)についてみると、『市民一人ひとりが、よりいっそうの節電等の省エネに努めるべきだ』、『市民は、マイバッグの持参をはじめとしたごみの減量の取り組みに積極的に協力すべきだ』及び、『市民は、市の分別収集ルールをきちんと守り、リサイクルに積極的に取り組むべきだ』、『環境教育については家庭生活や日常生活の中で教えていくべきだ』の4項目で、80%を超えています。

そのほかの項目についても、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答が、いずれも60%以上となっています。

【市民の環境の取り組みに関する考え方】



## 2. 意識調査結果

### ○ 平成 10 年度調査との比較

本調査結果と平成 10 年度調査結果について、市民の環境の取り組みに関する考え方を支持する回答を比較すると、『市民は、市の分別収集ルールをきちんと守り、リサイクルに積極的に取り組むべきだ』という考え方を支持する意見が、17.4%増加しています。

その他の項目に関しては、際立って大きな意識の変化がみられたものはありませんでした。

【市民の環境の取り組みに関する考え方（平成 10 年度調査結果との比較）】

項目	H25	H10	H10 年度調査との比較
外出や通勤通学には公共交通機関を利用し、自家用車の使用は控えるべきだ	72.8%	79.6%	-6.8%
身近な山の緑を維持するために、市民が率先して枝払いや下草刈りのボランティアなどをすべきだ	60.9%	54.4%	6.5%
市民は、マイバッグの持参をはじめとしたごみの減量の取り組みに積極的に協力すべきだ	85.7%	83.6%	2.1%
市民は、市の分別収集ルールをきちんと守り、リサイクルに積極的に取り組むべきだ	89.5%	72.1%	17.4%
駅前や市街地などの公共の場も、市民が率先して美化活動すべきだ	68.8%	63.3%	5.5%
自分たちが使う公園は、市民が積極的に美化や管理を行うべきだ	67.3%	63.3%	4.0%
環境教育については家庭生活や日常生活の中で教えていくべきだ	82.8%	84.7%	-1.9%

### ● クロス集計

市民の環境の取り組みに関する考え方について、年代別・地区別でクロス集計を行った結果、上述の単純集計及び平成 10 年度調査結果との比較で特徴的な結果が得られた事項に関しては、明確な差はほとんどみられませんでした。

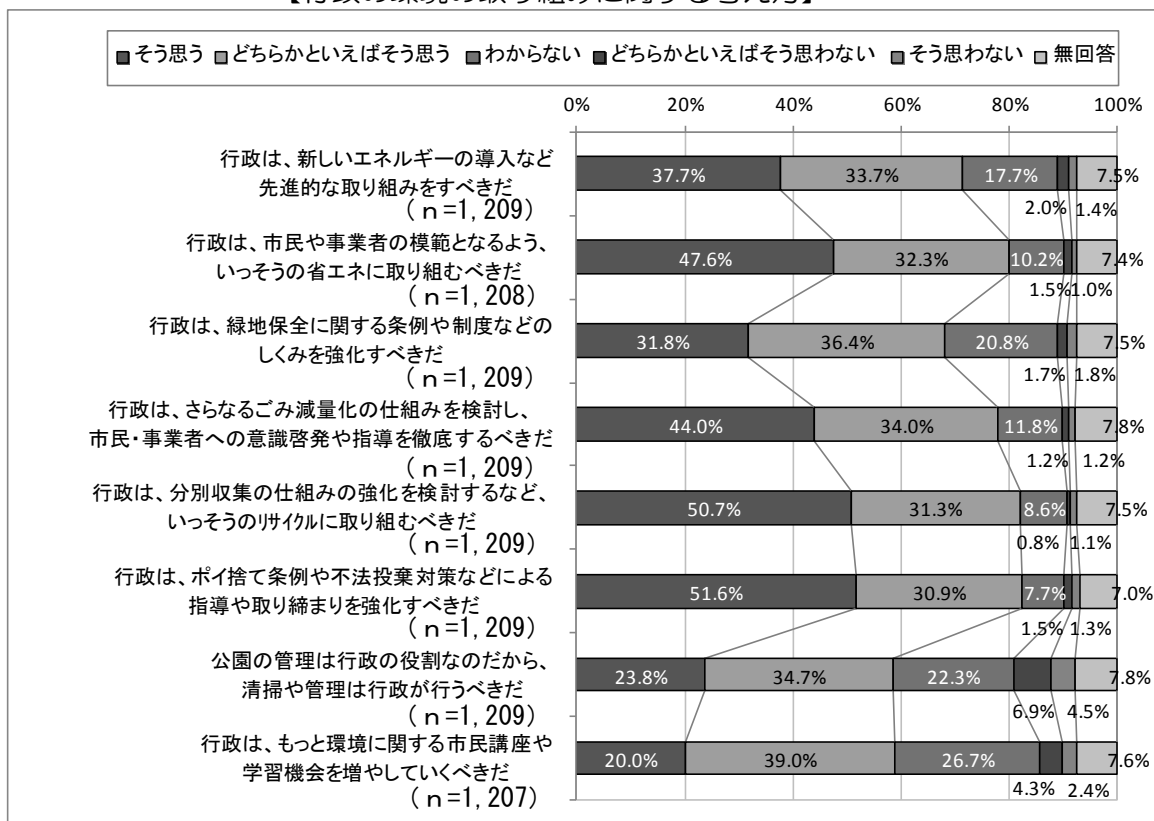
#### b) 行政の取り組みについて

- ・市民と同様、ごみ問題や省エネルギーへの取り組みのほか、ポイ捨てや不法投棄対策の推進に関する考え方を支持する回答が多くなっています。

行政の環境の取り組みに関する考え方を支持する回答について、『行政は、分別収集の仕組みの強化を検討するなど、いっそうのリサイクルに取り組むべきだ』と『行政は、ポイ捨て条例や不法投棄対策などによる指導や取り締まりを強化すべきだ』の 2 項目で、80%を超える回答となっています。次いで、『行政は、市民や事業者の模範となるよう、いっそうの省エネに取り組むべきだ』が 79.9%、『行政は、さらなるごみ減量化の仕組みを検討し、市民・事業者への意識啓発や指導を徹底すべきだ』が 78.0%となっています。

なお、そのほかの項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答は、『公園の管理は行政の役割なのだから、清掃や管理は行政が行うべきだ』と『行政は、もっと環境に関する市民講座や学習機会を増やしていくべきだ』の回答が若干低くなるものの、いずれも60%を超える回答となっています。

【行政の環境の取り組みに関する考え方】



○ 平成10年度調査との比較

本調査結果と平成10年度の調査結果について、日常生活における市民の環境の取り組みに関する考え方を支持する回答を比較すると、『行政は、分別収集の仕組みの強化を検討するなど、いっそうのリサイクルに取り組むべきだ』という考え方を支持する回答が、18.8%増加しています。

その他の項目に関しては、際立って大きな意識の変化がみられたものはありませんでした。

## 2. 意識調査結果

【行政の環境の取り組みに関する考え方（平成 10 年度調査結果との比較）】

項目	H25	H10	H10 年度調査との比較
行政は、新しいエネルギーの導入など先進的な取り組みをすべきだ	71.4%	76.7%	-5.3%
行政は、緑地保全に関する条例や制度などのしくみを強化すべきだ	68.2%	69.3%	-1.1%
行政は、さらなるごみ減量化の仕組みを検討し、市民・事業者への意識啓発や指導を徹底すべきだ	78.0%	82.7%	-4.7%
行政は、分別収集の仕組みの強化を検討するなど、いっそうのサイクルに取り組むべきだ	82.0%	63.2%	18.8%
行政は、ポイ捨て条例や不法投棄対策などによる指導や取り締まりを強化すべきだ	82.5%	78.2%	4.3%
公園の管理は行政の役割なのだから、清掃や管理は行政が行うべきだ	58.5%	66.8%	-8.3%
行政は、もっと環境に関する市民講座や学習機会を増やしていくべきだ	59.0%	66.4%	-7.4%

### ● クロス集計

行政の環境の取り組みに関する考え方について、年代別・地区別でクロス集計を行った結果、上述の単純集計及び平成 10 年度調査結果との比較で特徴的な結果が得られた事項に関しては、明確な差はほとんどみられませんでした。

#### c) 事業者の取り組みについて

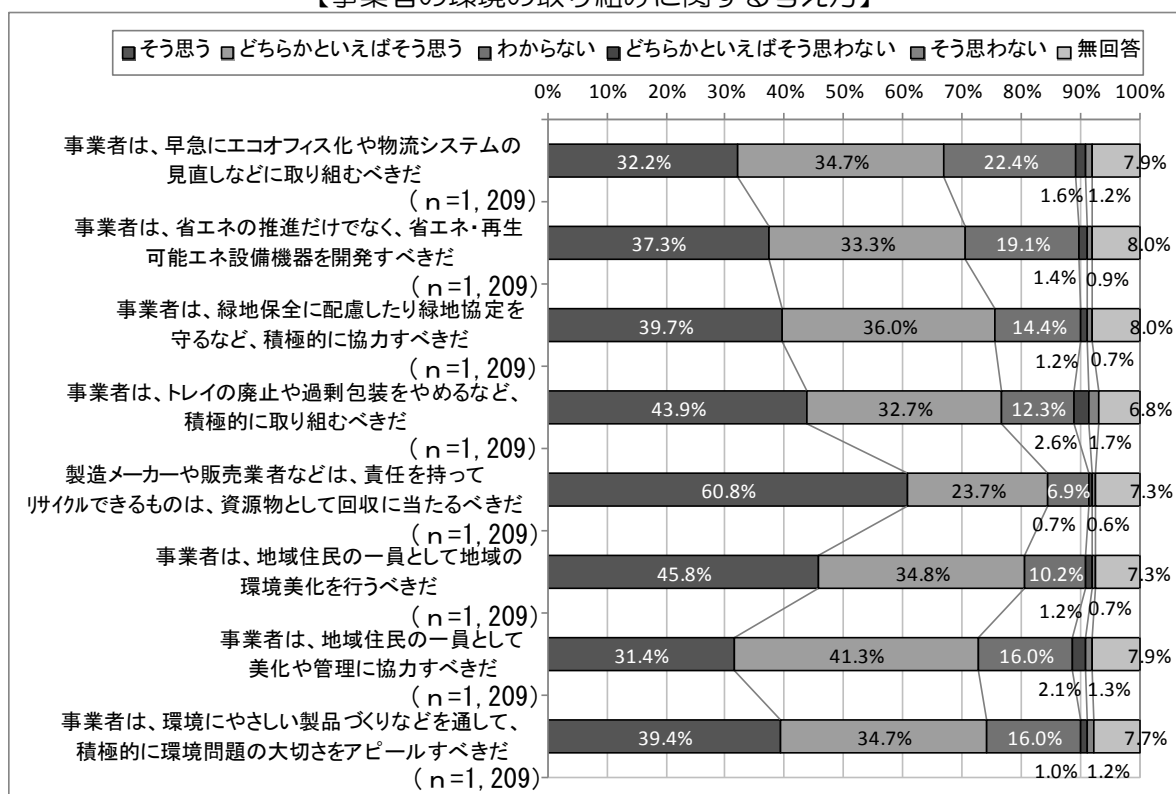
- ・リサイクルに関する取り組みの考え方を支持する回答が多くなっています。

事業者の環境の取り組みに関する考え方を支持する回答について、『製造メーカーや販売業者などは、責任を持ってリサイクルできるものは、資源物として回収に当たるべきだ』が、84.5%で最も高く、次いで、『事業者は、地域住民の一員として地域の環境美化を行うべきだ』が、80.6%となっています。

なお、そのほかの取り組みについては、「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」を合わせると、『事業者は、早急にエコオフィス化や物流システムの見直しなどに取り組むべきだ』が66.9%で若干低くなっていますが、それ以外は70%以上となっています。



【事業者の環境の取り組みに関する考え方】



○ 平成 10 年度調査との比較

本調査結果と平成 10 年度の調査結果について、事業者の環境の取り組みに関する考え方を支持する回答を比較しましたが、際立って大きな意識の変化がみられたものではありませんでした。

【事業者の環境の取り組みに関する考え方（平成 10 年度調査結果との比較）】

項目	H25	H10	H10 年度調査との比較
事業者は、早急にエコオフィス化や物流システムの見直しなどに取り組むべきだ	66.9%	65.0%	1.9%
事業者は、省エネの推進だけでなく、省エネ・再生可能エネ設備機器を開発すべきだ	70.6%	70.6%	0.0%
事業者は、緑地保全に配慮したり緑地協定を守るなど、積極的に協力すべきだ	75.7%	71.9%	3.8%
事業者は、トレーの廃止や過剰包装をやめるなど、積極的に取り組むべきだ	76.6%	83.4%	-6.8%
製造メーカーや販売業者などは、責任を持ってリサイクルできるものは、資源物として回収に当たるべきだ	84.5%	80.3%	4.2%
事業者は、地域住民の一員として地域の環境美化を行うべきだ	80.6%	76.7%	3.9%
事業者は、地域住民の一員として美化や管理に協力すべきだ	72.7%	68.2%	4.5%
事業者は、環境にやさしい製品づくりなどを通して、積極的に環境問題の大切さをアピールすべきだ	74.1%	80.0%	-5.9%

## 2. 意識調査結果

### 2) 市の将来の環境について

#### 【質問文（問9）】

将来の逗子市の環境について、次に挙げる項目にそれぞれ A、B の考え方がある場合、あなたのお考えはどちらに近いですか。1～5 の番号の中からもっとも近いものを 1 つだけ選び、○をつけてください。

・「A の考え方」を支持する回答が主流であり、「B の考え方」は、いずれも少数となっています。

#### a) 緑地について

緑地については、『緑豊かで閑静な住環境を維持するため、今ある自然を守るべきだ』という A の考え方を支持する回答（「A に近い」と「どちらかといえば A に近い」の合計）が、68.8%であり、『若年層の流入や社会基盤整備のため、ルールに合った範囲で開発を推進すべきだ』という B の考え方を支持する回答（「B に近い」と「どちらかといえば B に近い」の合計）の 14.0%を大きく上回っています。

#### b) ごみ問題について

ごみ問題については、『ごみの分別やリサイクルなどに多少手間がかかっても市民が協力できる部分は協力したい』という A の考え方を支持する回答が、74.2%であり、『多少コストがかかっても分別の手間などを考えると廃棄物処理についてはすべて行政に任せたい』という B の考え方を支持する回答の 10.0%を大きく上回っています。

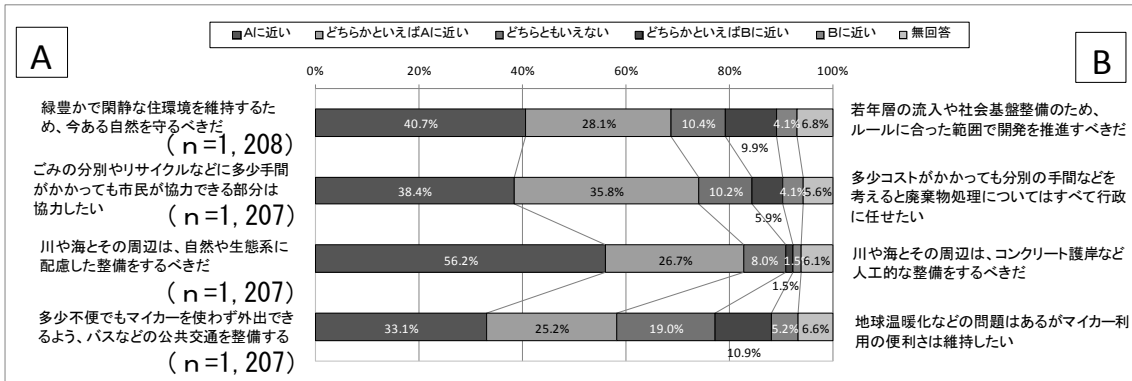
#### c) 河川や海の整備について

河川や海の整備については、『川や海とその周辺は、自然や生態系に配慮した整備をするべきだ』という A の考え方を支持する回答が、82.9%であり、『川や海とその周辺は、コンクリート護岸など人工的な整備をするべきだ』という B の考え方を支持する回答の 3.0%を大きく上回っています。

#### d) マイカーの利用について

マイカーの利用については、『多少不便でもマイカーを使わず外出できるよう、バスなどの公共交通を整備するなどしてほしい』という A の考え方を支持する回答が、58.3%であり、『地球温暖化などの問題はあるがマイカー利用の便利さは維持したい』という B の考え方を支持する回答の 16.1%を大きく上回っています。なお、「どちらともいえない」という回答は 19.0%と、B の考え方よりも高くなっています。

【逗子市の将来の環境について望むこと】



○ 平成 10 年度調査との比較

本調査結果と平成 10 年度の調査結果について、環境の取り組みに対する考え方（「A に近い」と「どちらかといえば A に近い」の合計）を比較したところ、際立って大きな意識の変化は見られませんでした。

【逗子市の将来の環境について望むこと（平成 10 年度調査結果との比較）】

項目	H25	H10	H10 年度調査との比較
緑豊かで閑静な住環境を維持するため、今ある自然を守るべきだ	68.8%	73.0%	-4.2%
ごみの分別やリサイクルなどに多少手間がかかっても市民が協力できる部分は協力したい	74.2%	73.1%	1.1%
川や海とその周辺は、自然や生態系に配慮した整備をするべきだ	82.9%	83.5%	-0.6%
多少不便でもマイカーを使わず外出できるよう、バスなどの公共交通を整備するなどしてほしい	58.3%	62.9%	-4.6%

● クロス集計

逗子市の将来の環境について望むことについて、年代別・地区別でクロス集計を行った結果、上述の単純集計及び平成 10 年度調査結果との比較で特徴的な結果が得られた事項に関しては、明確な差はほとんどみられませんでした。

## 2. 意識調査結果

### ⑥ 意見・要望等

本調査では、多くの市民の方からさまざまなご意見・ご要望をいただきました。ご意見・ご要望の内容を環境分野ごとに分類整理したものが、下記の表です。

いただいたご意見等は、全部で499件となっています。内訳についてみると、自然に関する内容は、全部で83件であり、自然環境全般や公園・緑地に関するご意見等が多くなっています。

廃棄物に関しては、ごみ減量やリサイクルに関わる内容が41件、地球温暖化は6件となっています。生活環境に関するものは、水質や騒音・振動、悪臭について19件、都市景観等については、景観や道路交通整備に関する内容が多く、全部で231件となっています。そのほか、市政全般に関する内容なども多く、119件となっています。

【意見・要望の概要】

区分	項目	件数
自然 (小計83件)	自然環境全般	23件
	山・森林・緑	14件
	動植物	8件
	海・河川	11件
	公園・緑地	27件
廃棄物 (小計41件)	ごみ減量	36件
	リサイクル	5件
地球温暖化(小計6件)		6件
生活 (小計19件)	水質	2件
	騒音・振動	15件
	悪臭	2件
都市景観等 (小計231件)	景観	80件
	美化	19件
	道路交通整備	132件
市政全般(小計119件)		119件
合計		499件

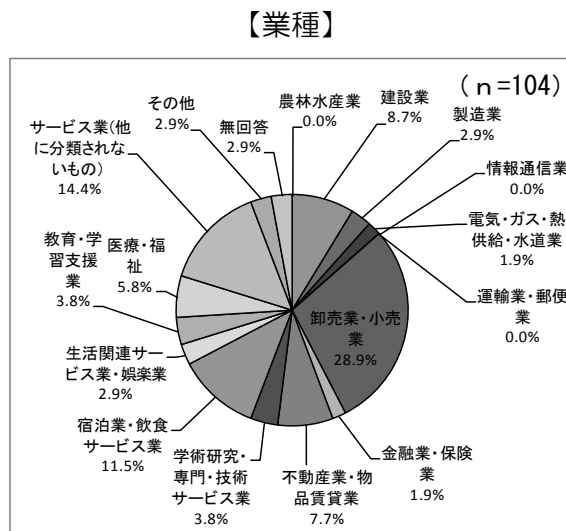
(2) 事業者意識調査結果

① 回答者属性

- 従業員規模は、「10人未満」が大半を占めています。
- 事業年数は、「30年以上」が半数近くを占めています。
- 「逗子」地区の事業者が40%以上となっています。

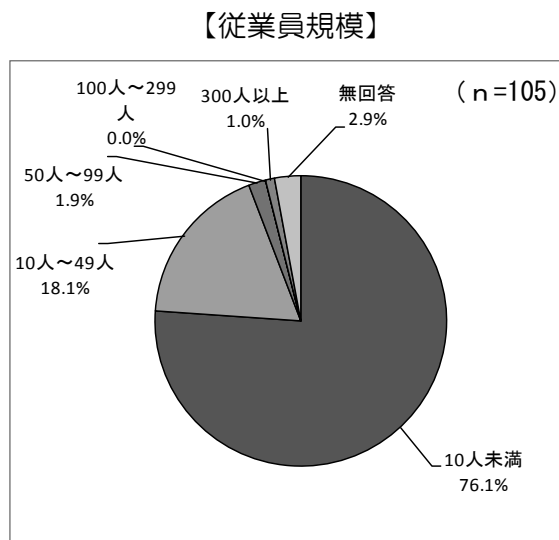
1) 業種

回答事業者の業種は、「卸売業・小売業」が28.9%で、最も高く、次いで、「サービス業(他に分類されないもの)」が14.4%、「宿泊業・飲食サービス業」が11.5%の割合が比較的高くなっています。



2) 従業員規模

回答事業者の従業員規模は、「10人未満」が76.1%で、大半を占めています。次いで、「10人～49人」が18.1%であり、50人以上の事業所は、3%程度となっています。

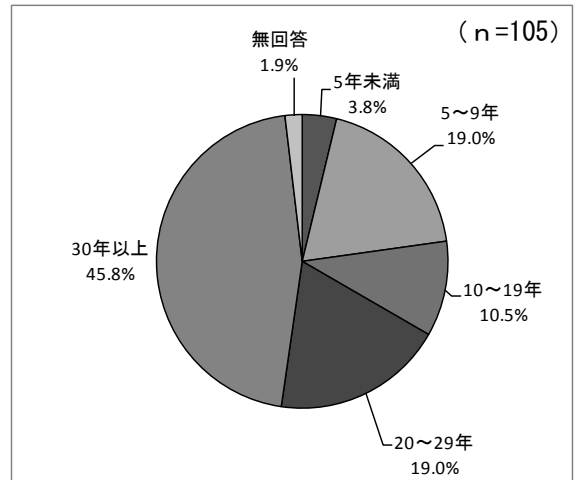


## 2. 意識調査結果

### 3) 事業年数

回答事業者の事業年数は、「30年以上」が45.8%で、半数近くとなっています。次いで、「20～29年」と「5～9年」が19.0%、「10～19年」が10.5%と続いています。地域で10年以上事業活動を継続している事業者が75%以上を占めています。

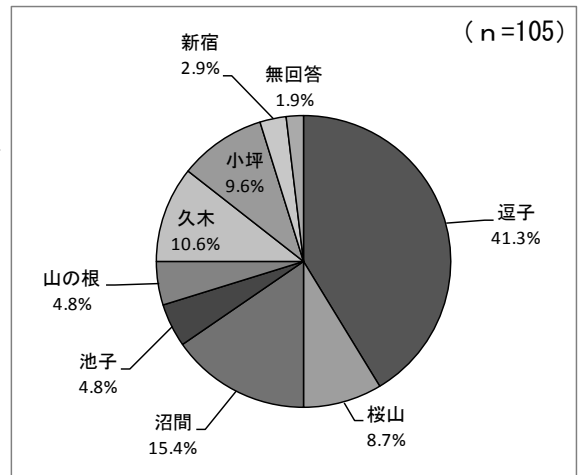
【事業年数】



### 4) 所在地区

回答事業者の所在地区は、「逗子」地区が41.3%で、最も多く、次いで、「沼間」地区が15.4%、「久木」地区が10.6%、「小坪」地区が9.6%、「桜山」地区が8.7%、「池子」地区と「山の根」地区が4.8%、「新宿」地区が2.9%となっています。

【所在地区】



② 環境への取り組み状況について

1) 環境活動の取り組み状況

a) 取り組みの状況

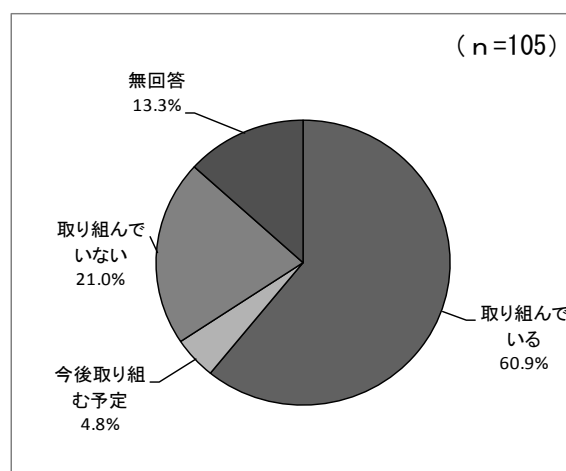
【質問文（問2-1）】

貴事業所では、日常業務の中で、環境配慮のための活動（以下、「環境活動」といいます。）に取り組んでいますか。あてはまる番号1～3から1つだけ選び、○をつけてください。

・環境活動に「取り組んでいる」事業者は半数以上となっています。

回答事業者の日常業務における環境活動の実施状況は、「取り組んでいる」が60.9%であり、「今後取り組む予定」としている事業者は、4.8%となっています。また、環境活動に「取り組んでいない」と回答した事業者は、21.0%となっています。

【環境活動の取り組み状況】



b) 取り組んでいない理由

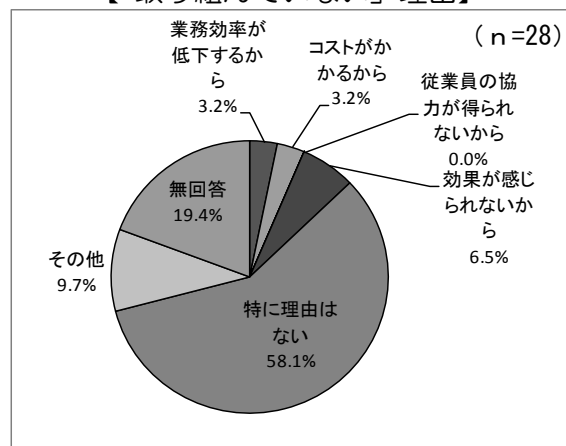
【質問文（問2-2）】

「取り組んでいない」を選んだ方にお聞きします。取り組んでいない理由は何ですか。あてはまる番号すべてに、○をつけてください。

前述の1)のa)で環境活動に「取り組んでいない」と回答した事業者について、その理由を質問したところ、「業務効率が低下するから」、「コストがかかるから」、「効果が感じられないから」が10%強であり、「特に理由はない」という回答は58.1%と、60%近くを占めています。

その他の意見としては、「環境に負荷をかける業務を行っていないため」等という回答がありました。

【「取り組んでいない」理由】



## 2. 意識調査結果

### 2) 日常業務における環境活動の取り組み状況

【質問文（問3）】

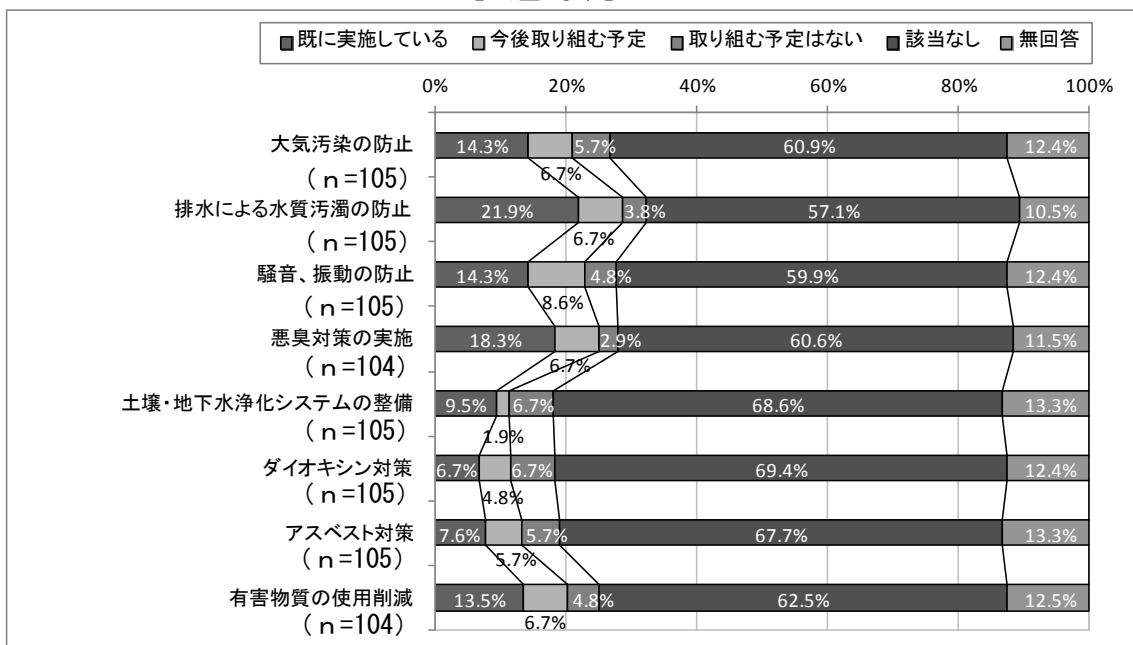
貴事業所では、日常業務の中で、どのような環境活動を実施していますか。それぞれの項目について、あてはまる番号を1～4の中から1つだけ選び、○をつけてください。

- 環境活動の実施状況については、廃棄物の減量やリサイクル、省エネルギー対策の実施率が高くなっています。
- 公害対策及び環境マネジメントシステムや製品開発に関する取り組みについては、回答事業者の業種や事業規模の関連から、該当しないとする回答が多くなっています。

#### a) 公害対策

公害対策の実施状況については、概ね60～70%程度がいずれの項目についても「該当なし」と回答していますが、『排水による水質汚濁の防止』と『悪臭対策の防止』は、20%程度の事業者が取り組みを実施しています。『大気汚染の防止』、『騒音、振動の防止』、『有害物質の使用削減』については、10%強程度の実施となっています。

【公害対策】



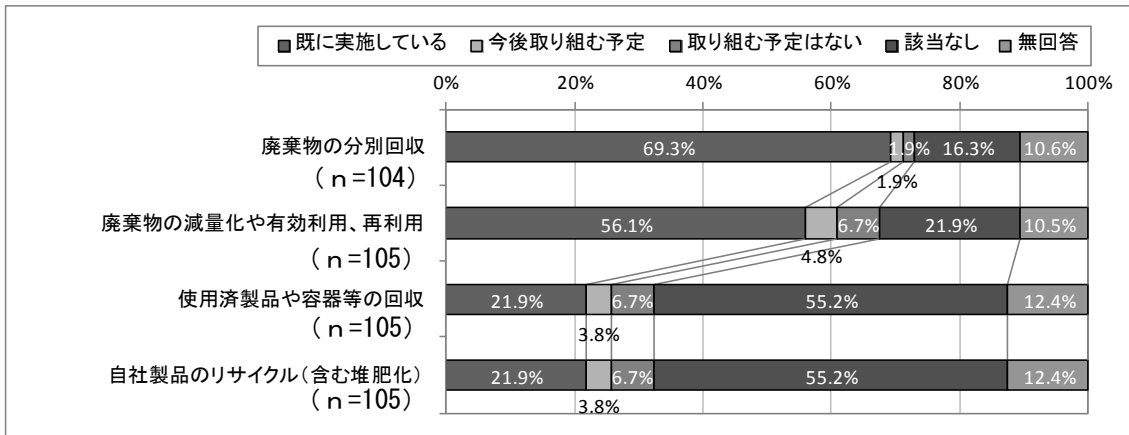
#### b) 廃棄物の減量やリサイクルの推進

廃棄物の減量やリサイクルの推進については、『廃棄物の分別収集』の実施率（「実施している」の回答）が69.3%で最も高くなっており、次いで、『廃棄物の減量化や有効利用、再利用』が56.1%となっています。



『使用済製品や容器等の回収』と『自社製品のリサイクル(含む堆肥化)』は、21.9%の実施率であり、「該当なし」への回答が半数以上を占めています。

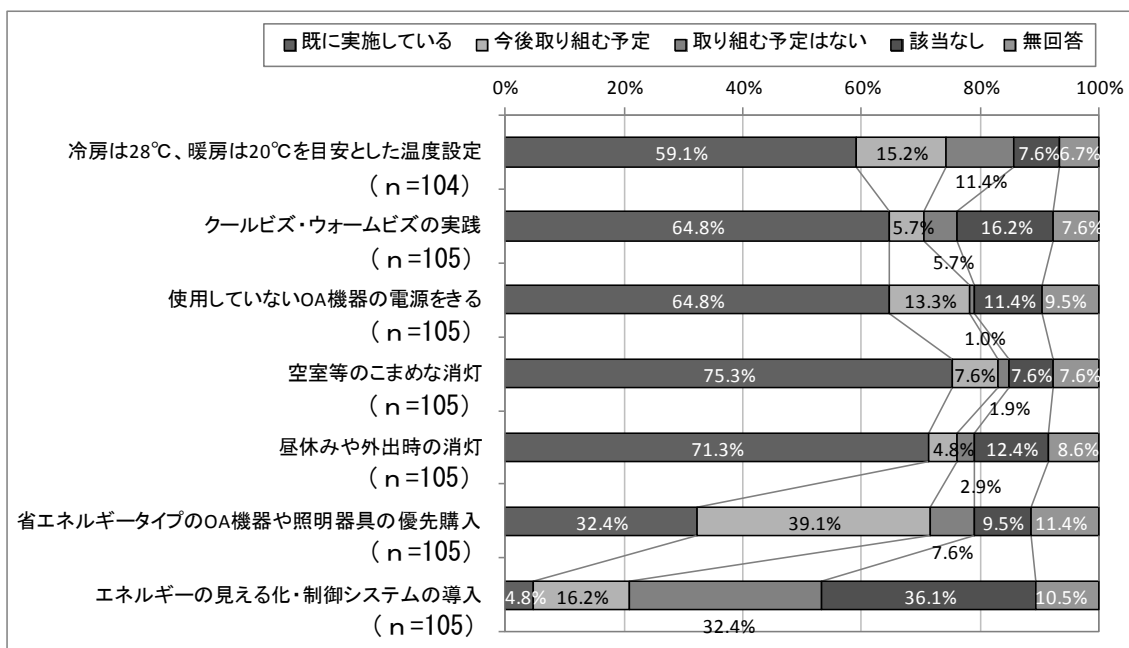
【廃棄物の減量やリサイクルの推進】



c) 省エネルギー・省資源・地球温暖化対策

省エネルギー・省資源・地球温暖化対策については、『空室等のこまめな消灯』『昼休みや外出時の消灯』の実施率が、70%以上となっているほか、『冷房は28℃、暖房は20℃を目安とした温度設定』『クールビズ・ウォームビズの実践』『使用していないOA機器の電源をきる』についても60%前後と、比較的高くなっています。『省エネルギータイプのOA機器や照明器具の優先購入』の実施率は、32.4%となっていますが、「今後取り組む予定」が39.1%と、高い割合を示しています。

【省エネルギー・省資源・地球温暖化対策】



## 2. 意識調査結果

### d) その他の日常的な環境活動

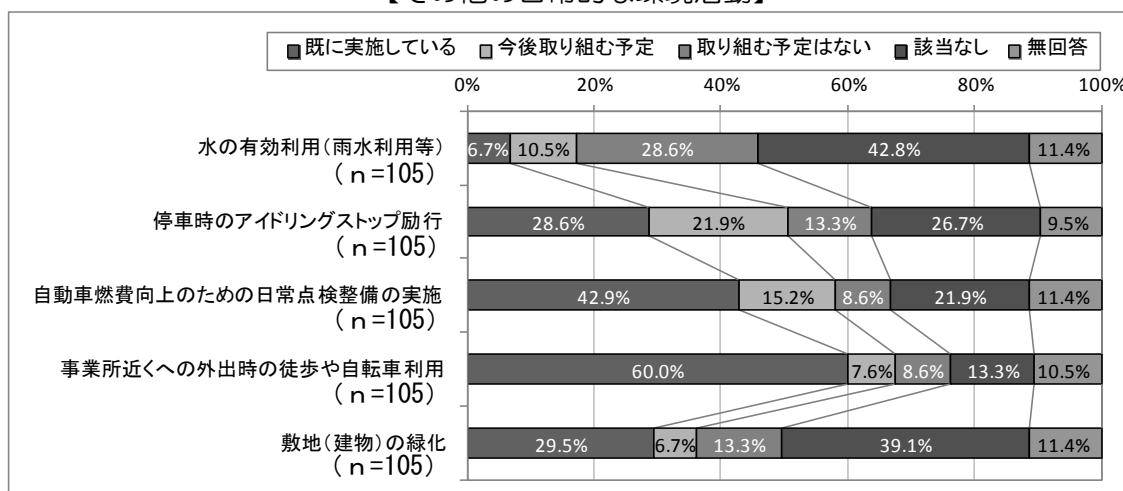
その他の日常的な環境活動としては、節水や自動車等の利用、緑化に関する項目を挙げています。

節水の取り組み（『水の有効利用（雨水利用等）』）は、「該当なし」が42.8%で最も高く、「取り組む予定はない」という回答も28.6%であり、実施率は10%に満たない状況です。

自動車等の利用については、『事業所近くへの外出時の徒歩や自転車利用』が最も高く、60.0%となっており、次いで、『自動車燃費向上のための日常点検整備の実施』が42.9%、『停車時のアイドリングストップ励行』が28.6%です。後者の2つの取り組みに関しては、「今後取り組む予定」という回答が、それぞれ15.2%、21.9%と、比較的高くなっています。

緑化（『敷地（建物）の緑化』）については、「該当なし」が39.1%で最も高く、「既に実施している」という回答は、29.5%となっています。

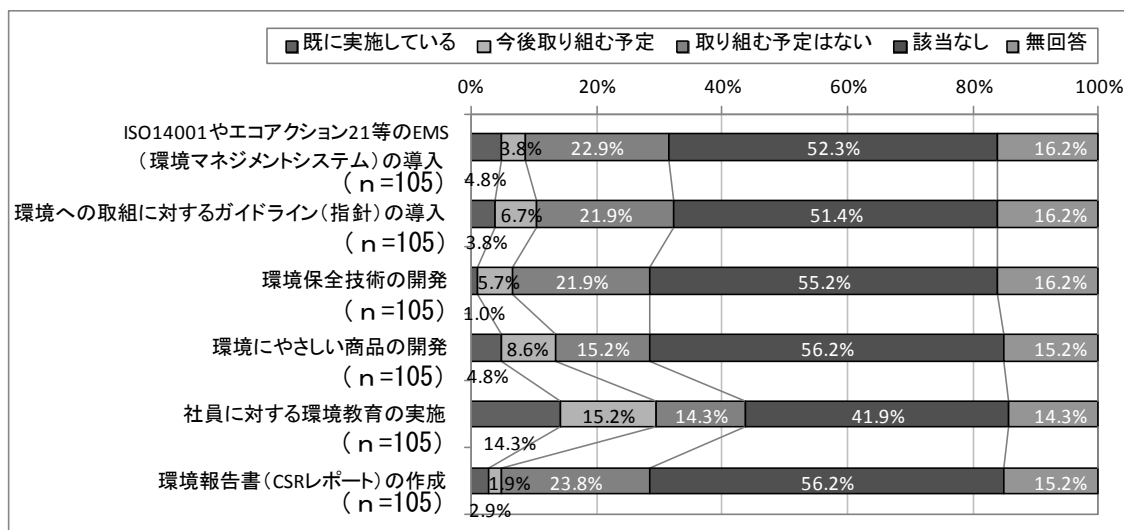
【その他の日常的な環境活動】



### e) 環境マネジメントシステムや製品開発

環境マネジメントシステムや製品開発については、『社員に対する環境教育の実施』が14.3%となっているものの、その他の項目の実施率は非常に低くなっています。また、「今後実施する予定」の取り組みについても、『社員に対する環境教育の実施』が15.2%と、比較的高くなっています。ただし、『社員に対する環境教育の実施』以外の取り組みについては、「該当なし」と回答した事業者が半数以上となっています。

## 【環境マネジメントシステムや製品開発】



## 3) 環境活動に取り組む理由

## 【質問文(問4)】

貴事業所では、環境活動に取り組む理由をどのようにお考えですか。あてはまる番号を1~9の中から3つまで選び、○をつけてください。

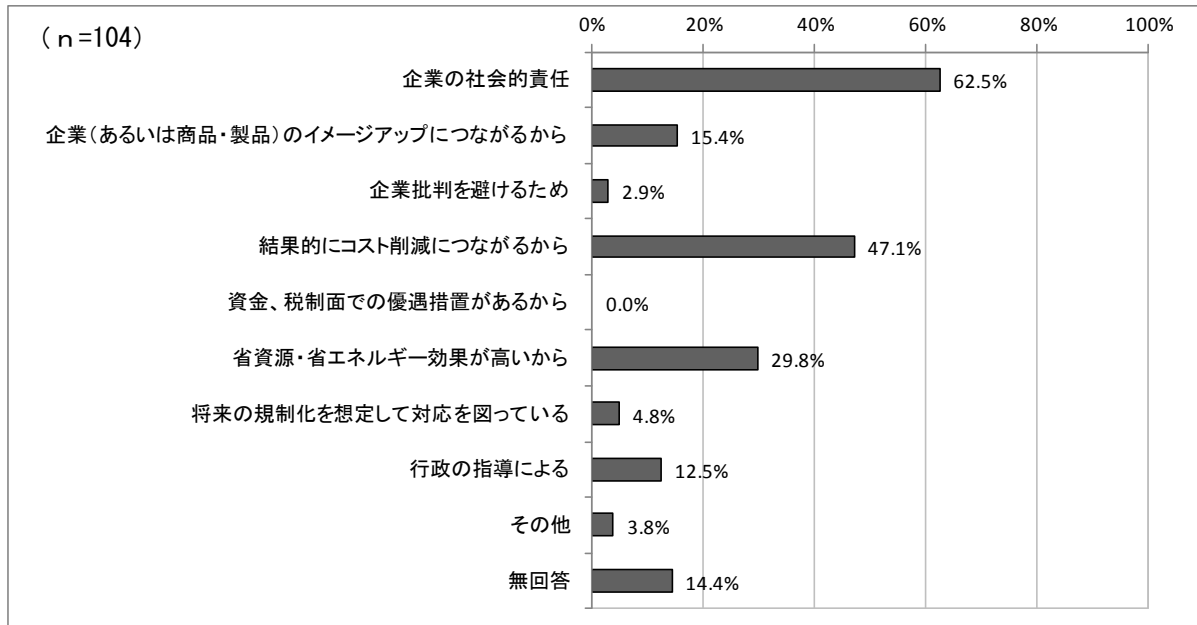
- 「企業の社会的責任」に基づき環境活動を推進している事業者が多くなっていますが、コスト削減や省資源・省エネルギーの実現も重視されています。

回答事業者が環境活動に取り組む理由としては、「企業の社会的責任」が62.5%で最も高くなっており、次いで、「結果的にコスト削減につながるから」が47.1%、「省資源・省エネルギー効果が高いから」が29.8%となっており、事業者としての責務や事業活動におけるメリットなどを踏まえた自主的な取り組みを推進しています。

その他の意見としては、「未来を託す子どもたちのため」等という回答がありました。

## 2. 意識調査結果

【環境活動に取り組む理由】



### 4) 環境活動の効果

#### 【質問文(問5)】

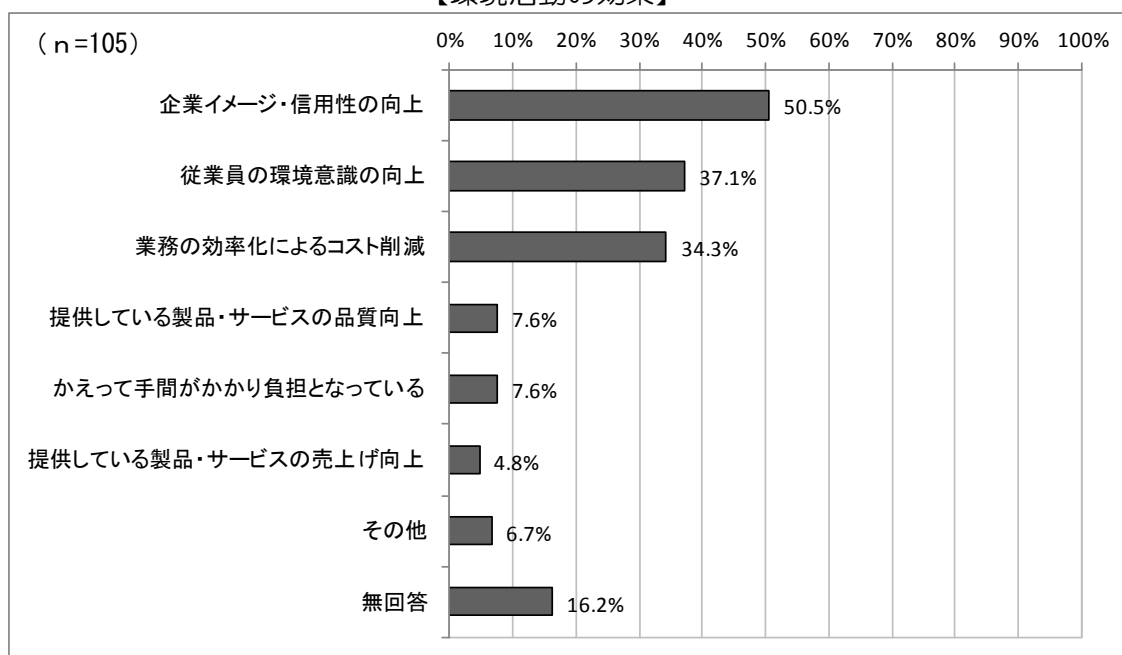
貴事業所において、環境活動に取り組むことで、どのような効果があるとお考えですか。あてはまる番号すべてに、○をつけてください。

- 環境活動を通じて、「企業イメージ・信用性の向上」を志向している事業者が多く、従業員の環境教育やコスト削減につながるという回答も比較的多くみられます。

環境活動に取り組むことで得られる効果については、「企業イメージ・信用性の向上」が、50.5%で最も高く、次いで、「従業員の環境意識の向上」が37.1%、「業務の効率化によるコスト削減」が34.3%となっています。

その他の意見としては、「郷土愛の向上」等という回答がありました。

【環境活動の効果】



5) 再生可能エネルギーや省エネルギー型機器・設備の導入状況等

【質問文 (問6)】

貴事業所の再生可能エネルギーや省エネルギー型の機器・設備の導入状況等についてお尋ねします。それぞれの項目について、あてはまる番号を1~3の中から1つだけ選び、○をつけてください。

- 再生可能エネルギーや省エネルギー型機器・設備の導入率は、全体的に低い状況ですが、「今後導入したい」ものとして挙げられた、『省エネルギー診断や改修』、『太陽光発電システム』、『高効率空調システム』、『高効率給湯器』、『ハイブリッドカー等の低燃費車やクリーンエネルギー車』、『事業者の遮熱・断熱化』は、比較的ニーズが高くなっています。

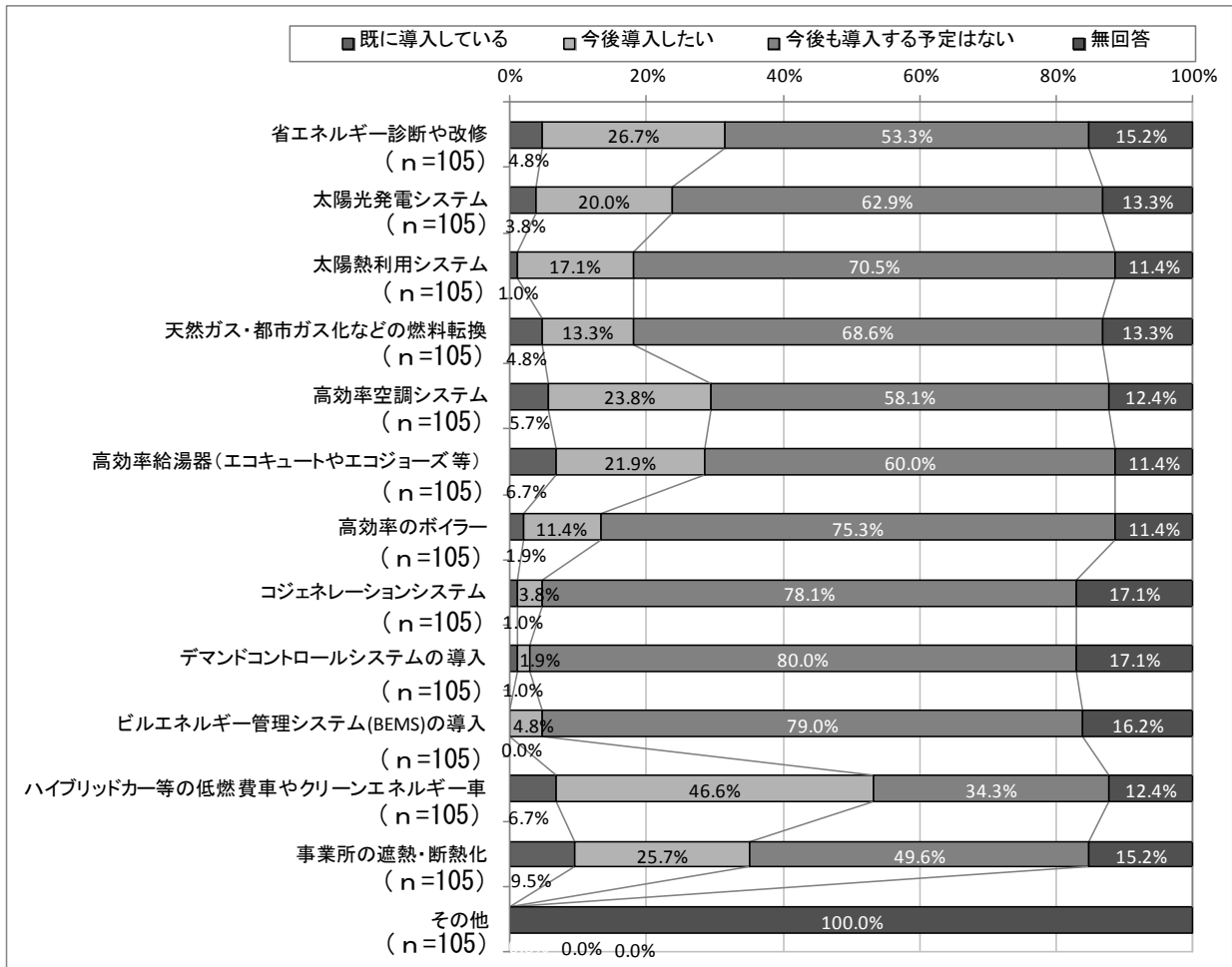
再生可能エネルギーや省エネルギー型の機器・設備の導入状況については、「既に購入している」ものとして、最も高くなっているのが、『事業者の遮熱・断熱化』の9.5%です。

「今後導入したい」機器・設備としては、『ハイブリッドカー等の低燃費車やクリーンエネルギー車』が46.6%で最も高くなっており、次いで、『省エネルギー診断や改修』が26.7%、『事業者の遮熱・断熱化』が25.7%、『高効率空調システム』が23.8%、『高効率給湯器 (エコキュートやエコジョーズ等)』が21.9%、『太陽光発電システム』が20.0%で続いています。

## 2. 意識調査結果

「今後も導入する予定はない」という回答が特に多い項目は、『コジェネレーションシステム』、『デマンドコントロールシステム』及び、『ビルエネルギー管理システム(BEMS)』であり、いずれも80%程度となっています。

【再生可能エネルギーや省エネルギー型機器・設備の導入状況】



### 6) 地域における環境活動

【質問文(問7)】

貴事業所では、地域社会の一員として、環境のためにどのような取り組みをしていますか。あてはまる番号すべてに、○をつけてください。

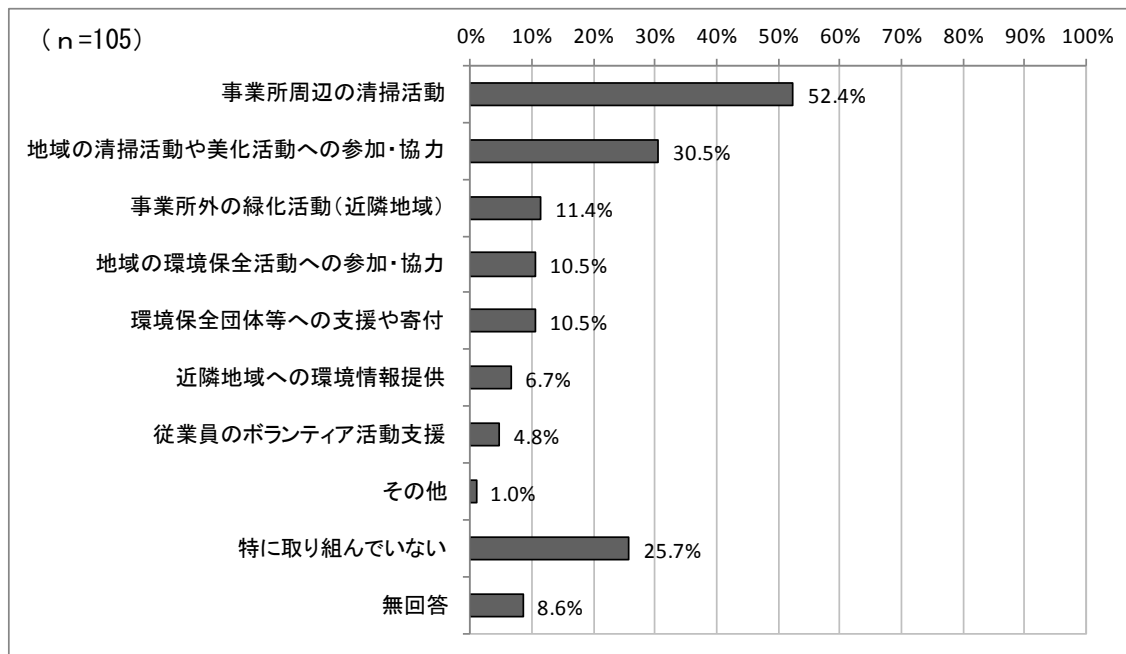
・清掃活動や美化活動への参加率が高くなっています。

地域における環境活動への参加状況については、「事業所周辺の清掃活動」が52.4%で最も高く、次いで、「地域の清掃活動や美化活動への参加・協力」が30.5%であり、環境美化や清掃の取り組みが中心となっています。そのほかの項目の参加

割合は10%程度かそれ以下となっています。なお、「特に取り組んでいない」という回答は、25.7%となっています。

その他の意見としては、「リサイクル回収の実施」という回答がありました。

【地域における環境活動への参加状況】



## 7) 環境活動推進上の課題

### 【質問文(問8)】

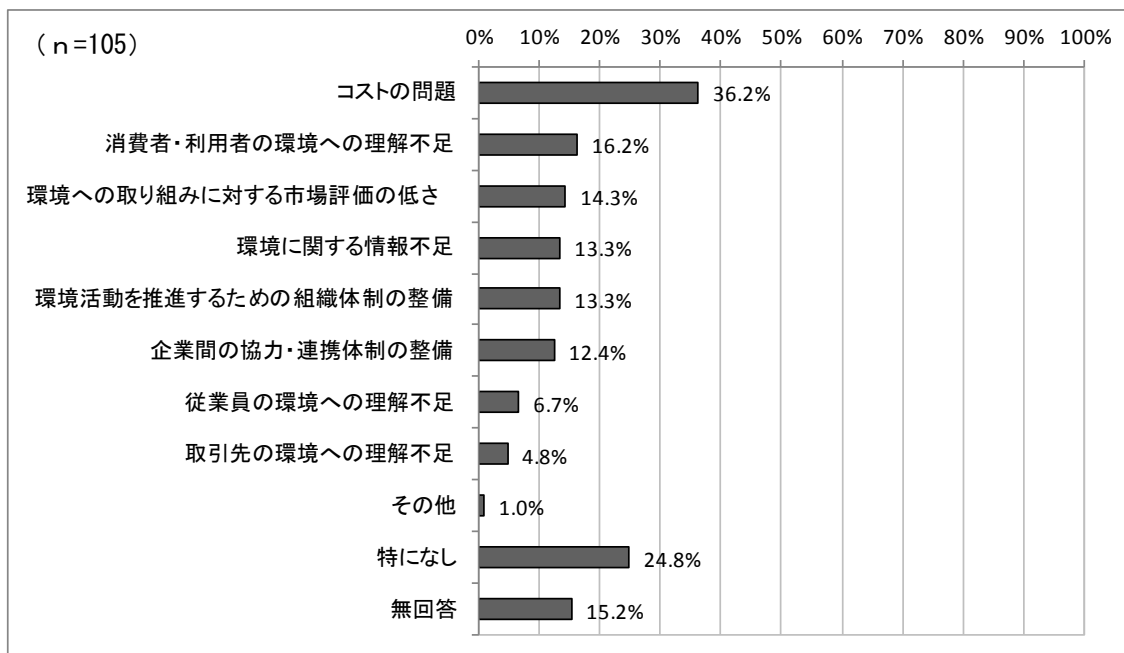
貴事業所において環境活動を進めるにあたり、どのようなことが課題になっているとお考えですか。あてはまる番号すべてに、○をつけてください。

- 環境活動に必要な「コストの問題」を課題として挙げる事業者が多くなっています。
- 環境活動の推進上の課題について、「特になし」とする事業者が4分の1程度みられます。

環境活動を進める上で課題となっていることとしては、「コストの問題」が36.2%で最も高く、「消費者・利用者の環境への理解不足」、「環境への取り組みに対する市場評価の低さ」、「環境に関する情報不足」、「環境活動を推進するための組織体制の整備」及び、「企業間の協力・連携体制の整備」に関して、それぞれ10%以上の回答となっています。

## 2. 意識調査結果

### 【環境活動を進める上での課題】





③ 逗子市の将来の環境について

1) 市民・行政・事業者の環境への取り組みについて

【質問文(問9)】

次に挙げた(1)～(8)の項目の取り組み方について、あなたの考えに最も近いものの番号を1～5の中から1つだけ選び、○をつけてください。

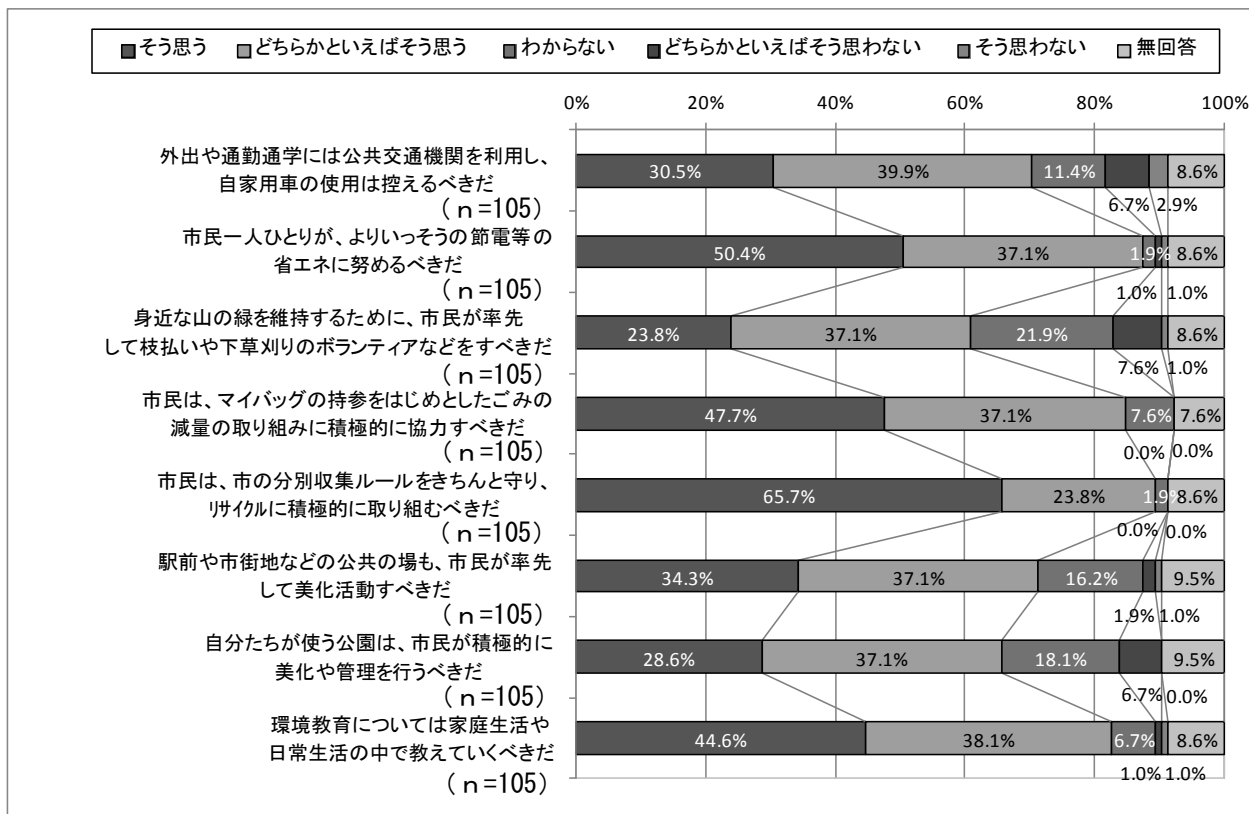
a) 市民の取り組みについて

・節電等の省エネルギーやごみの分別やリサイクルの実施を求める回答が多くみられます。

市民の環境の取り組みに関する考え方を支持する回答(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計)について、『市民は、市の分別収集ルールをきちんと守り、リサイクルに積極的に取り組むべきだ』が、89.5%で最も高く、次いで、『市民一人ひとりが、よりいっそうの節電等の省エネに努めるべきだ』が87.5%、『市民は、マイバッグの持参をはじめとしたごみの減量の取り組みに積極的に協力すべきだ』が84.8%、『環境教育については家庭生活や日常生活の中で教えていくべきだ』が、82.7%となっています。

なお、そのほかの項目については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計をみると、いずれも60%以上となっています。

【市民の環境の取り組みに関する考え方】



## 2. 意識調査結果

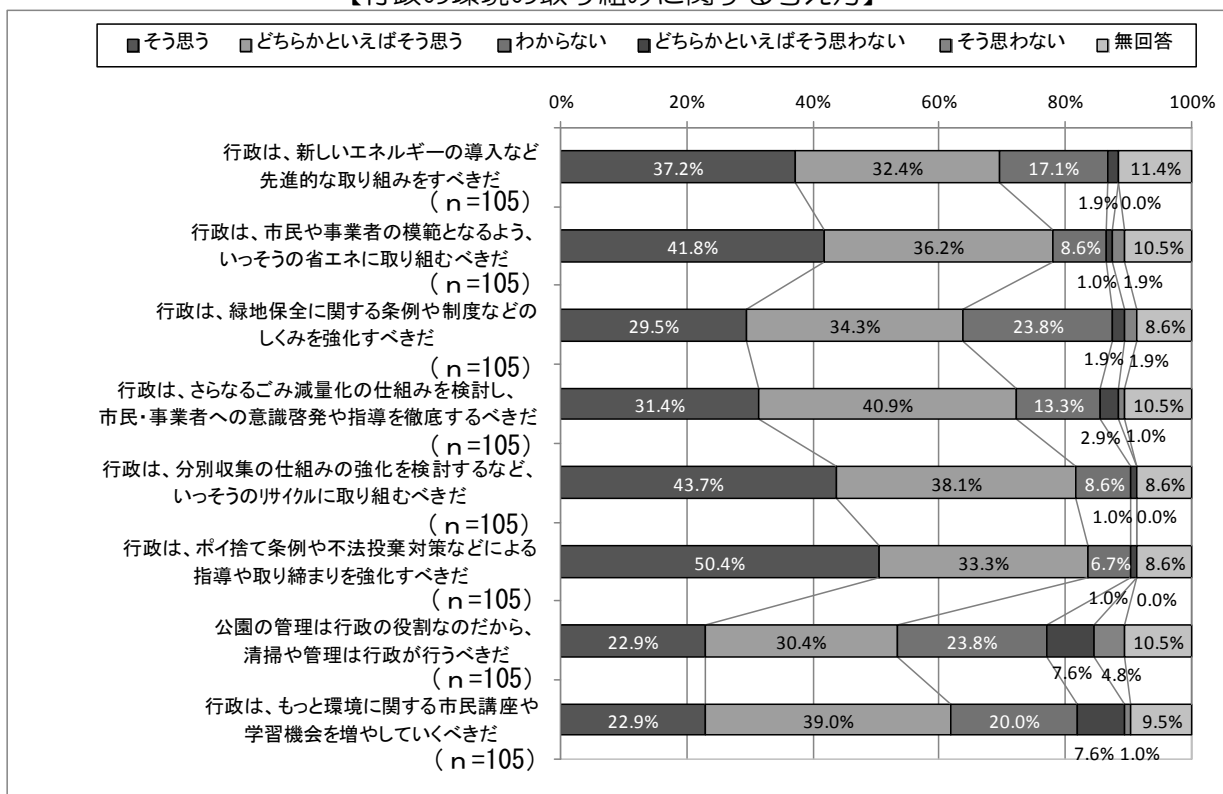
### b) 行政の取り組みについて

- ・ポイ捨てや不法投棄に関する対策の推進を求める回答が多くみられます。

行政の環境の取り組みに関する考え方を支持する回答について、『行政は、ポイ捨て条例や不法投棄対策などによる指導や取り締まりを強化すべきだ』が、83.7%で最も高く、次いで、『行政は、分別収集の仕組みの強化を検討するなど、いっそうのリサイクルに取り組むべきだ』が81.8%、『行政は、市民や事業者の模範となるよう、いっそうの省エネに取り組むべきだ』が78.0%となっています。

なお、そのほかの項目については、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて、『公園の管理は行政の役割なのだから、清掃や管理は行政が行うべきだ』が53.3%で若干低くなっていますが、それ以外は60%以上の回答となっています。

【行政の環境の取り組みに関する考え方】



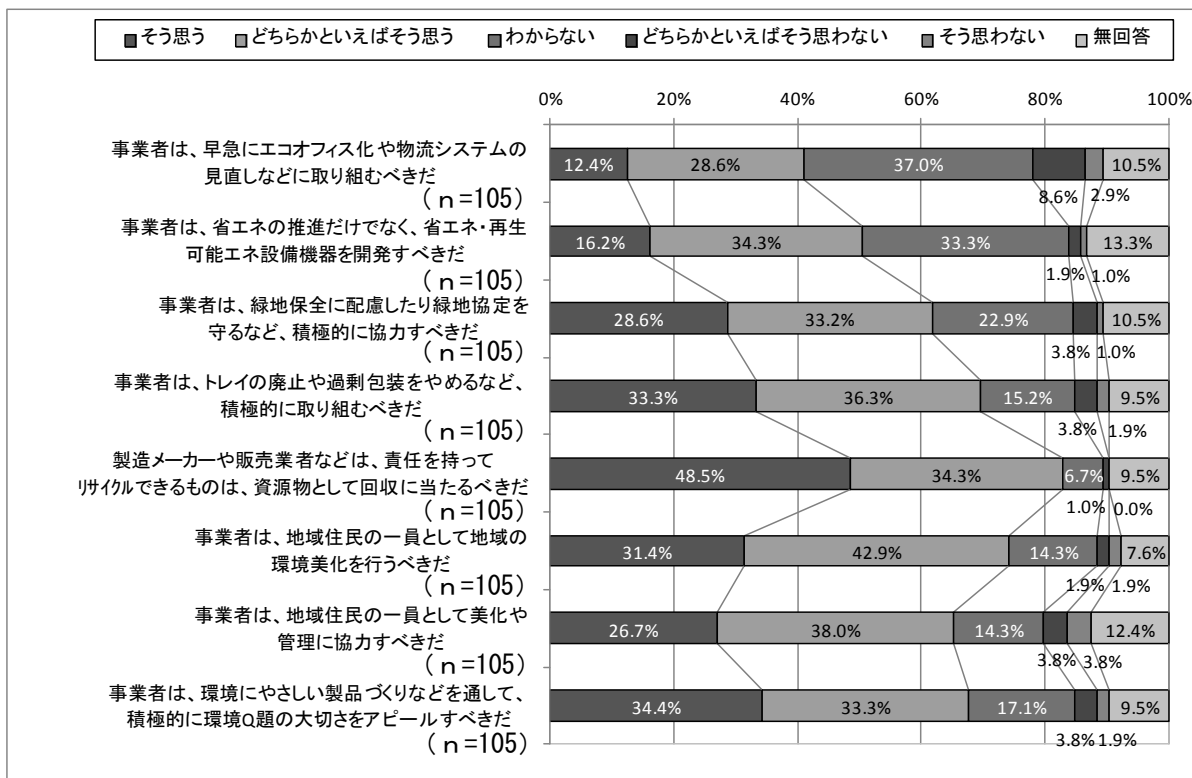
### c) 事業者の取り組みについて

- ・リサイクルの推進に関し、実施すべきと考える回答が多くみられます。

事業者の環境の取り組みに関する考え方を支持する回答について、『製造メーカーや販売業者などは、責任を持ってリサイクルできるものは、資源物として回収に当たるべきだ』への「そう思う」という回答が、82.8%で最も高くなっています。

そのほかの項目について、「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合わせて、『事業者は、省エネの推進だけでなく、省エネ・再生可能エネ設備機器を開発すべきだ』が50.5%、『事業者は、早急にエコオフィス化や物流システムの見直しなどに取り組むべきだ』が41.0%で、若干低くなっていますが、それ以外は60%以上の回答となっています。

【事業者の環境の取り組みに関する考え方】



2) 環境活動を推進するため市に望むこと

【質問文 (問 10)】

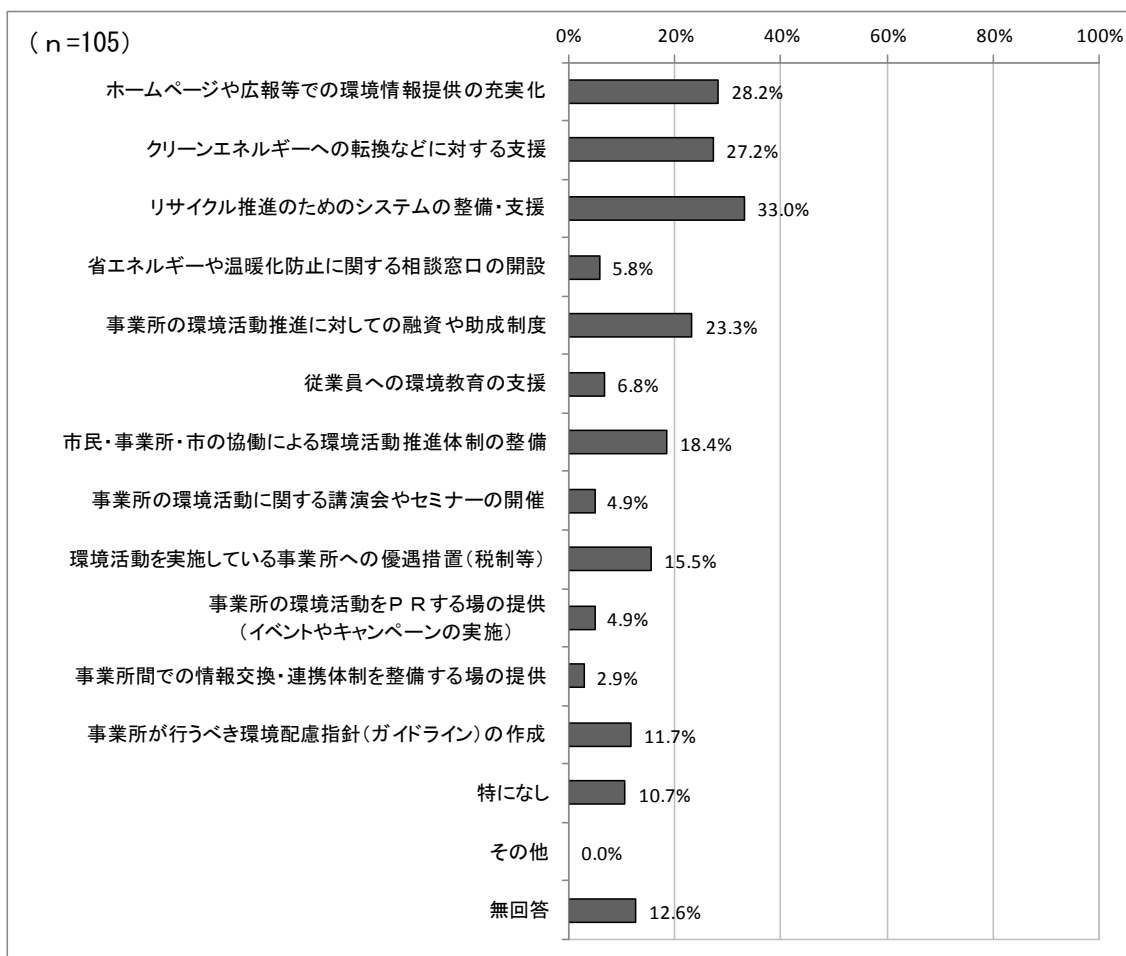
貴事業所がより積極的に環境活動を進めるために、市にどのようなことを望みますか。あてはまる番号を1~14の中から3つまで選び、○をつけてください。

- ・リサイクルの推進やクリーンエネルギーへの転換などの直接的な支援を求める意見や環境情報提供の充実化を望む意見が比較的多くみられます。

環境活動をより積極的に進めるために市へ望むこととして、「リサイクル推進のためのシステムの整備・支援」が、33.0%で最も高くなっており、次いで、「ホームページや広報等での環境情報提供の充実化」が28.2%、「クリーンエネルギーへの転換などに対する支援」が27.2%、「事業所の環境活動推進に対しての融資や助成制度」が23.3%となっています。また、「特になし」という回答は、10.7%となっています。

## 2. 意識調査結果

### 【環境活動を推進するため市に望むこと】



### 3) 市の将来の環境について

#### 【質問文(問11)】

将来の逗子市の環境について、次に挙げる項目にそれぞれA、Bの考え方がある場合、貴事業所のお考えはどちらに近いですか。1～5の番号の中からもっとも近いものを1つだけ選び、○をつけてください。

- ・「Aの考え方」を支持する回答が主流であり、「Bの考え方」は、いずれも少数となっています。

#### a) 緑地について

緑地については、『緑豊かで閑静な住環境を維持するため、今ある自然を守るべきだ』というAの考え方を支持する回答(「Aに近い」と「どちらかといえばAに近い」の合計)が、61.9%であり、『若年層の流入や社会基盤整備のため、ルールに合った範囲で開発を推進すべきだ』というBの考え方を支持する回答(「Bに近い」と「どちらかといえばBに近い」の合計)の23.8%を大きく上回っています。

b) ごみ問題について

ごみ問題については、『ごみの分別やリサイクルなどに多少手間がかかっても市民が協力できる部分は協力したい』というAの考え方を支持する回答が、74.0%であり、『多少コストがかかっても分別の手間などを考えると廃棄物処理についてはすべて行政に任せたい』というBの考え方を支持する回答の13.5%を大きく上回っています。

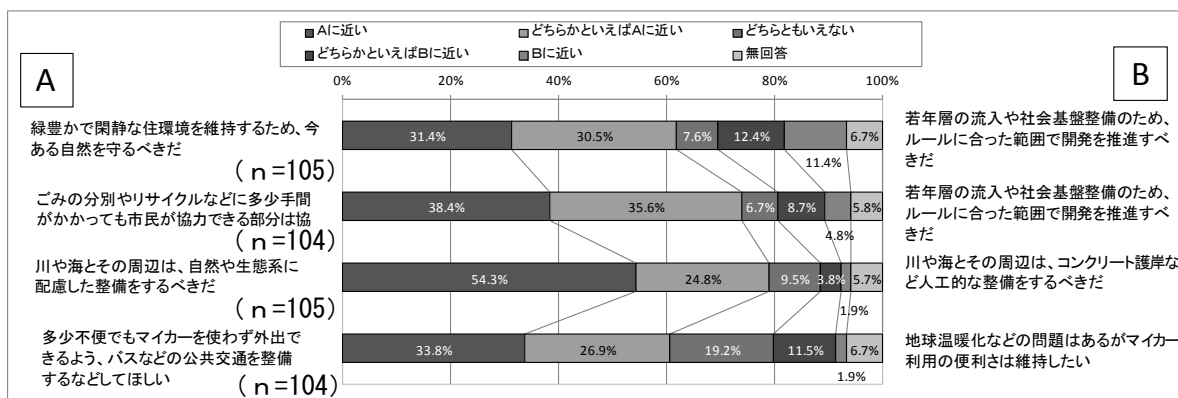
c) 河川や海の整備について

河川や海の整備については、『川や海とその周辺は、自然や生態系に配慮した整備をするべきだ』というAの考え方を支持する回答が、79.1%であり、『川や海とその周辺は、コンクリート護岸など人工的な整備をするべきだ』というBの考え方を支持する回答の5.7%を大きく上回っています。

d) マイカーの利用について

マイカーの利用については、『多少不便でもマイカーを使わず外出できるよう、バスなどの公共交通を整備するなどしてほしい』というAの考え方を支持する回答が、60.7%であり、『地球温暖化などの問題はありますがマイカー利用の便利さは維持したい』というBの考え方を支持する回答の13.4%を大きく上回っています。なお、「どちらともいえない」という回答も19.2%と、上記1)～3)と比べて、やや高くなっています。

【将来の逗子市の環境について】



## 2. 意識調査結果

### ④ 意見・要望等

本調査では、多くの事業者の方からさまざまなご意見・ご要望をいただきました。ご意見等の総数は14件で、景観に関する内容が比較的多くなっているほか、自然や廃棄物などへのご意見もありました。

(3) 小中学生意識調査結果

① 回答者属性

・回答者は、小学5年生が中学2年生よりもやや多く、男子が女子よりもやや多くなっています。

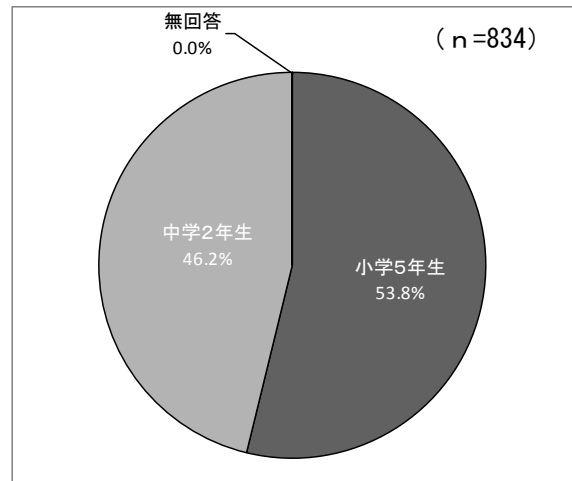
※本調査では、小学5年生と中学2年生を対象としています。

1) 小中学校

a) 小中学校区分

回答者は、「小学5年生」が53.8%、「中学2年生」が46.2%となっています。

【小中学校区分】

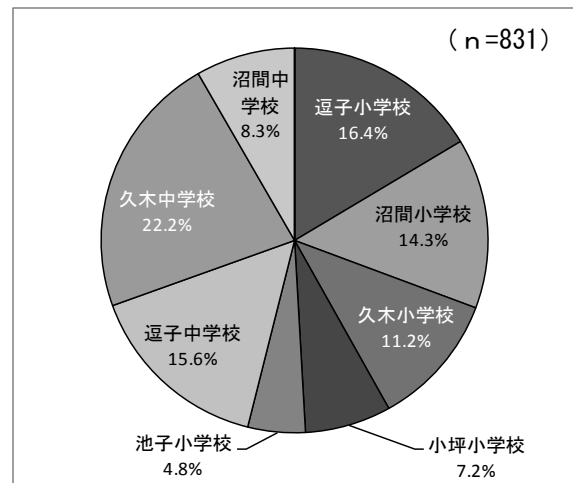


b) 学校区分

小中学校別の回答者についてみると、小学校では、「逗子小学校」が16.4%で最も多く、次いで「沼間小学校」が14.3%、「久木小学校」が11.2%、「小坪小学校」が7.2%、「池子小学校」が4.8%となっています。

中学校は、「久木中学校」が22.2%で最も多く、「逗子中学校」が15.6%、「沼間中学校」が8.3%となっています。

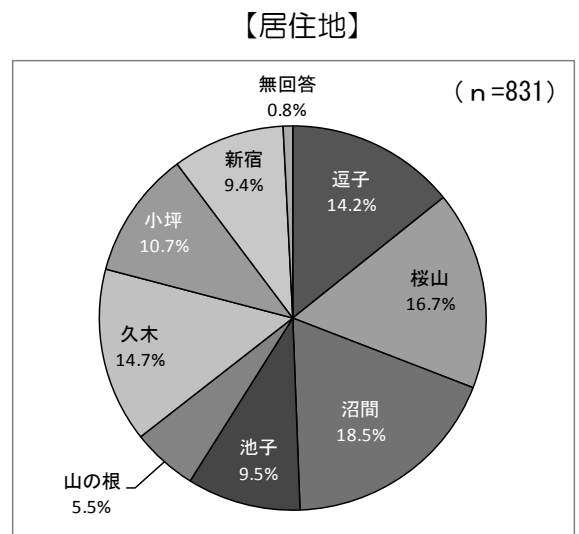
【学校区分】



## 2. 意識調査結果

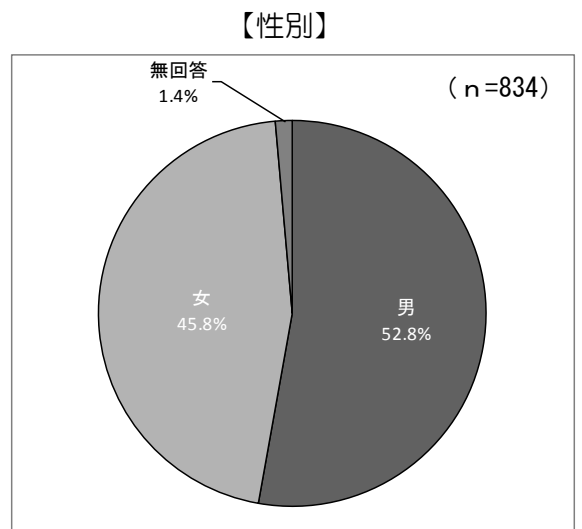
### c) 居住地

回答者の居住地は、「沼間」地区が18.5%で最も多く、「桜山」地区が16.7%、「久木」地区が14.7%、「逗子」地区が14.2%、「小坪」地区が10.7%と続いています。「池子」、地区「小坪」地区、「新宿」地区は全体の1割前後の割合であり、「山の根」地区は5.5%となっています。



### d) 性別

回答者の性別は、「男」が52.8%、「女」が45.8%となっています。





② 環境への意識について

1) 身近な環境への意識

【質問文(問1)】

次の1～11について、「思う」「思わない」「よくわからない」の中から1つだけ選び、あてはまる番号に○(マル)の印をつけてください。

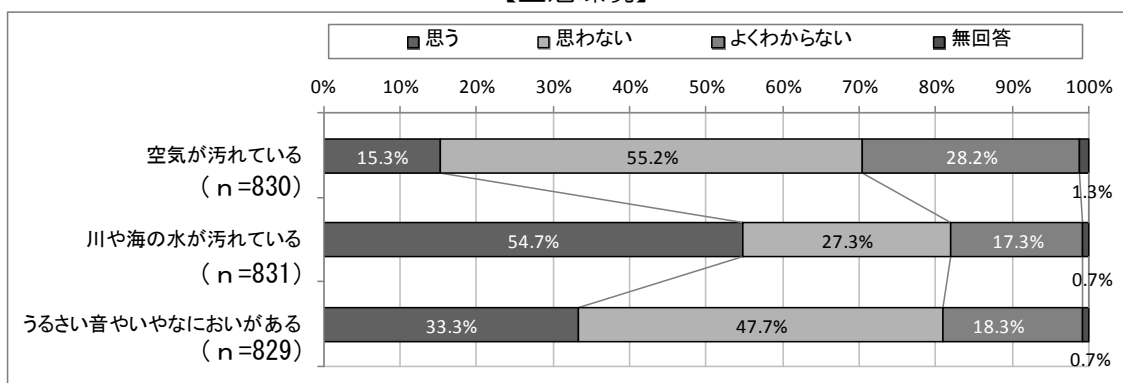
逗子市の身近な環境に関する小中学生の意識について、生活環境、自然環境、都市環境、環境活動の4つの分野で質問しました。

- 『空気が汚れている』や『山の緑が少ない』、『草花や昆虫など、動植物が少ない』、『交通の便が悪い』といった項目については、「思わない」という回答が多くなっています。
- 『川や海の水が汚れている』、『道路にごみがちらかっている』、『いつでも遊べる林や水辺が少ない』と「思う」回答が多くなっています。

a) 生活環境

『川や海の水が汚れている』について、「思う」という回答が54.7%で、「思わない」という回答の27.3%と比べて高くなっています。『空気が汚れている』と『うるさい音やいやなおいがある』については、「思わない」が、それぞれ55.2%、47.7%であり、「思う」という回答の15.3%、33.3%よりも高くなっています。

【生活環境】

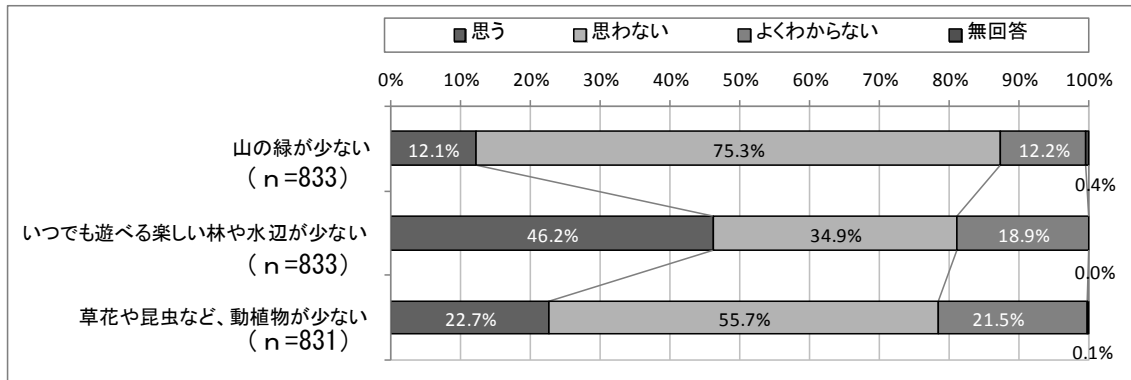


b) 自然環境

『いつでも遊べる楽しい林や水辺が少ない』について、「思う」という回答が、46.2%で、「思わない」という回答の34.9%と比べて高くなっています。『山の緑が少ない』と『草花や昆虫など、動植物が少ない』については、「思わない」が、それぞれ75.3%、55.7%であり、それぞれの「思う」という回答の12.1%、22.7%よりも高くなっています。

## 2. 意識調査結果

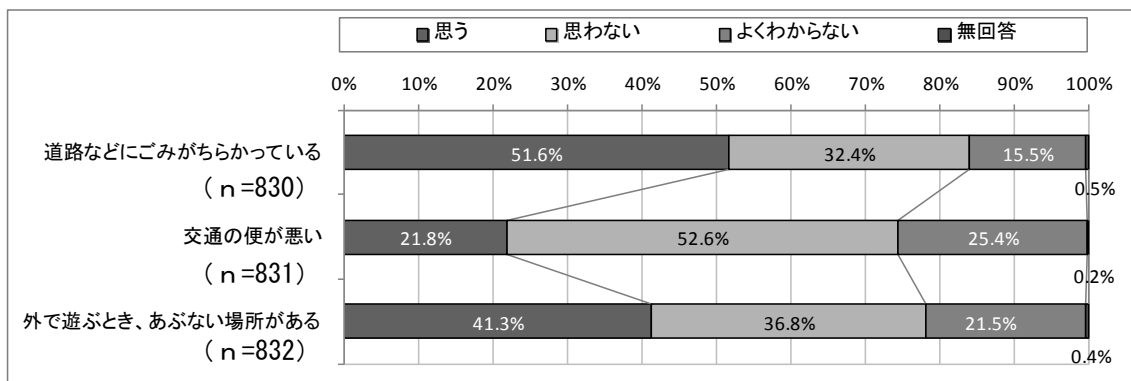
### 【自然環境】



### c) 都市環境

『道路などにごみがちらかっている』について、「思う」という回答が、51.6%であり、「思わない」という回答の32.4%と比べて高くなっています。『交通の便が悪い』については、「思わない」という回答が、52.6%であり、「思う」という回答の21.8%よりも高くなっています

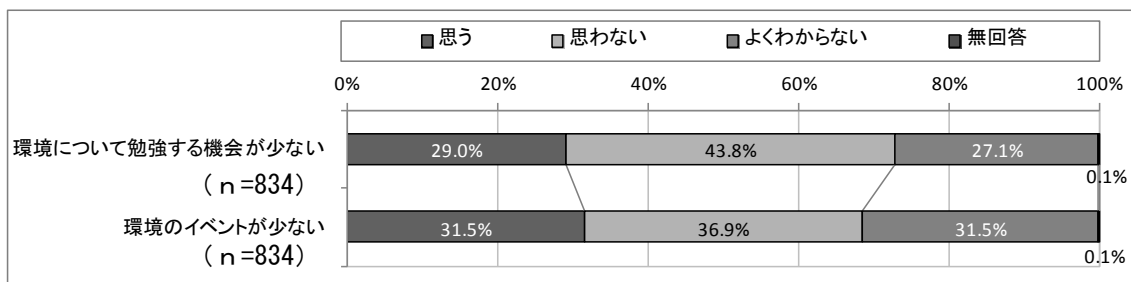
### 【都市環境】



### d) 環境活動

『環境活動について勉強する機会が少ない』について、「思わない」という回答が、43.8%であり、「思わない」という回答の29.0%と比べて高くなっています。

### 【環境活動】



## 2) 環境について関心のあること

### 【質問文(問2)】

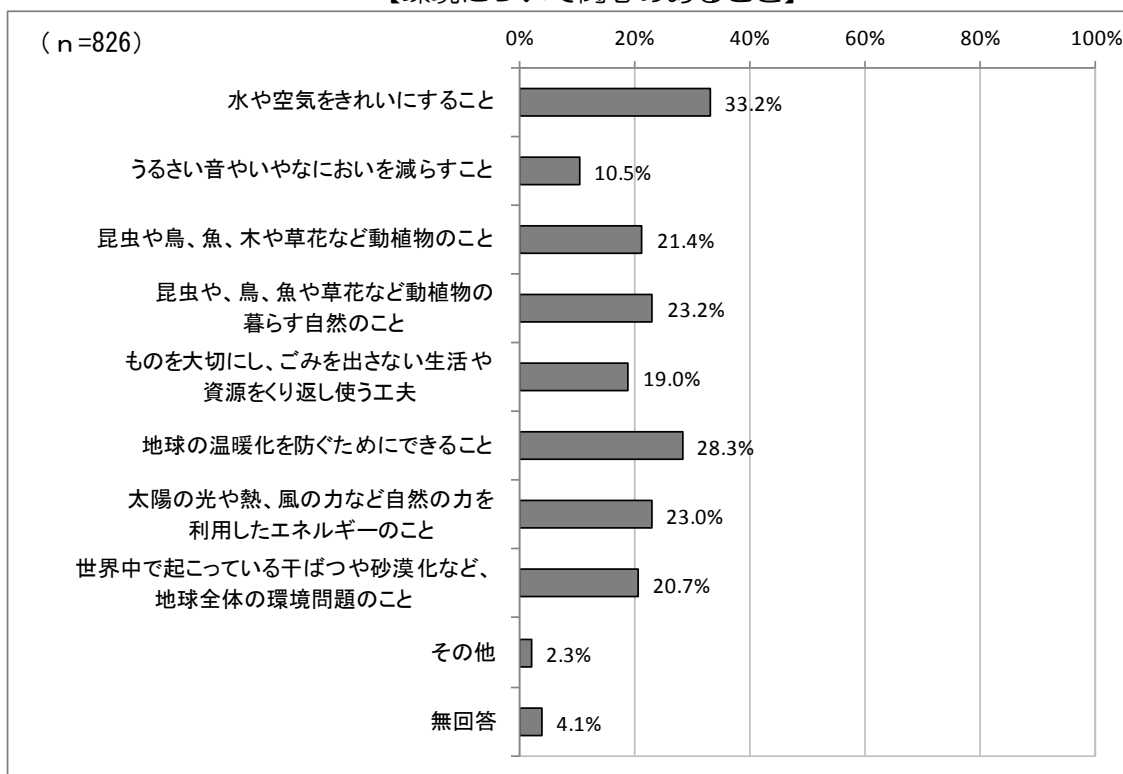
次の1～9の中から、とくに知りたいことや学びたいことを2つまで選んで、その番号に○(マル)の印をつけて下さい。9を選ぶときは、( )内にくわしく書いてください。

・「水や空気をきれいにすること」への関心が高くなっています。

環境について関心のあることとして、「水や空気をきれいにすること」が33.2%で最も高く、次いで「地球の温暖化を防ぐためにできること」が28.3%となっています。そのほかの項目については、20%前後が関心があると回答しています。

その他の意見としては、「花の森公園などがさくら山にもあってほしい」、「バス停を作ること」、「海岸がせまくなっていること」、「海岸を使うマナーが悪くなっていること」、「魚や海の物を詳しく知りたい」、「電気自動車(環境にやさしい)」、「リサイクルのもので作った作品のこと」等という回答がありました。

【環境について関心のあること】



## 2. 意識調査結果

### 3) 環境を良くするためにみんなで協力してみたいこと

【質問文（問3）】

次の1～8の中から、みんなで取り組んでみたいものを2つまで選んで、その番号に○（マル）の印をつけてください。8を選ぶときは、（ ）内にくわしく書いてください。

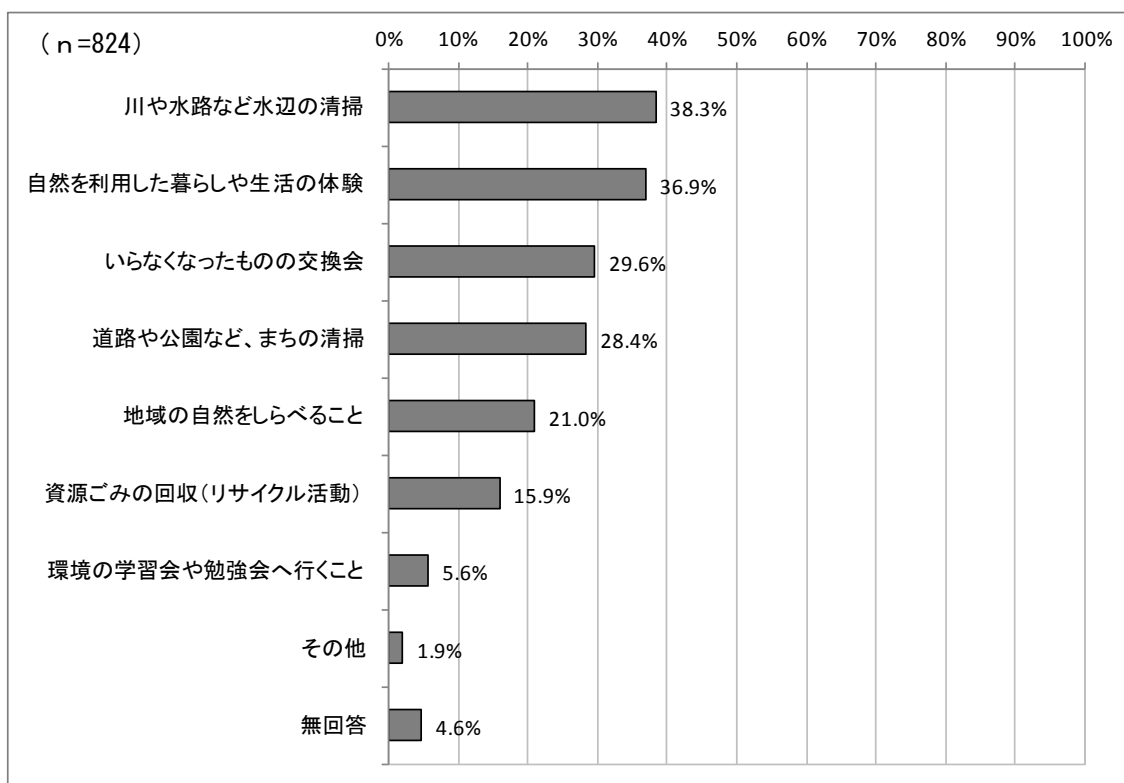
- ・「川や水路などの水辺の清掃」と「自然を利用した暮らしや生活の体験」に取り組みたいという回答が多くなっています。

環境を良くするためにみんなで取り組んでみたいことについては、「川や水路など水辺の清掃」が38.3%で最も高くなっており、次いで、「自然を利用した暮らしや生活の体験」が36.9%、「いらなくなったものの交換会」が29.6%、「道路や公園など、まちの清掃」が28.4%となっています。

なお、「環境の学習会や勉強会へ行くこと」については、5.6%と少なくなっています。

その他の意見としては、「ビオトープをつくる」、「鳥の家づくり」、「動物の暮らしを調べる」、「ゴミを捨てないように色々な方法で呼びかける」、等という回答がありました。

【環境を良くするためにみんなで取り組んでみたいこと】



#### 4) 環境への取り組み状況について

##### 【質問文(問4)】

次の1～11の内容は、毎日の生活のなかでできる環境にやさしい行動です。これらの行動について、「いつもしている」「ときどきしている」「これからしてみたい(今はしていない)」「関心がない」「わからない」のどれかを選び、当てはまる番号に○(マル)の印をつけてください。

- 11項目の取り組みの5項目について、実施率が50%以上となっています。そのほかの取り組みについては、実施率はやや低くなっていますが、「ときどきしている」や「これからしてみたい」の割合が高くなっています。

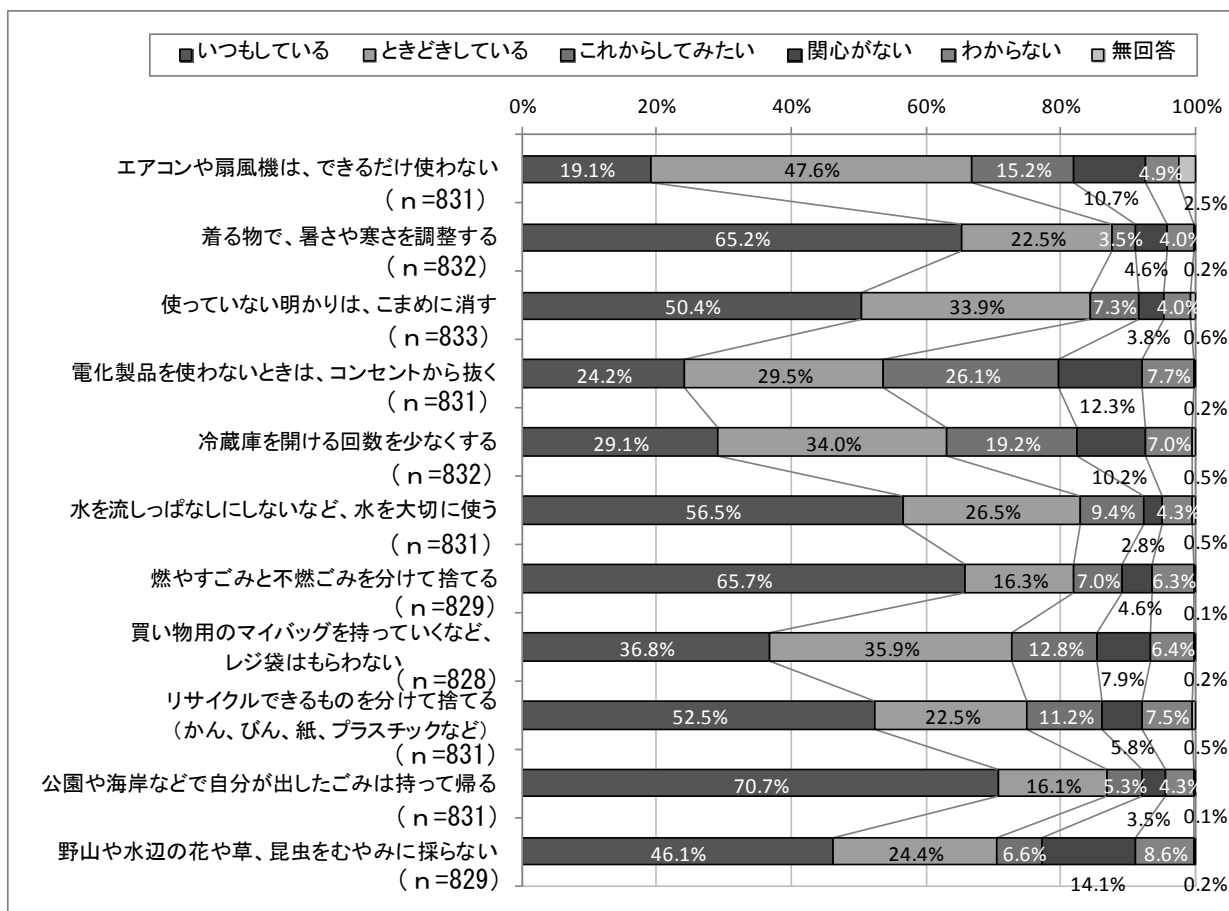
環境のために気をつけて行動していることについて、「いつもしている」と「時々している」の回答の合計でみると、『着る物で、暑さや寒さを調整する』が87.7%で最も高く、次いで、『公園や海岸などで自分が出したごみは持って帰る』が86.8%、『水を流しっぱなしにしないなど、水を大切に使う』が83.0%、『使っていない明かりは、こまめに消す』が84.3%、『燃やすごみと不燃ごみを分けて捨てる』が82.0%となっています。

また、『リサイクルできるものを分けて捨てる(かん、びん、紙、プラスチックなど)』や『買い物用のマイバッグを持っていくなど、レジ袋はもらわない』、『野山や水辺の花や草、昆虫をむやみに採らない』についても、実施率が高く、70%を超えています。

『電化製品を使わないときは、コンセントから抜く』と『冷蔵庫を開ける回数を少なくする』、『エアコンや扇風機は、できるだけ使わない』の実施率は70%以下で、他の項目と比べると低くなっていますが、「これから実施したい」という回答は、それぞれ26.1%、19.2%、15.2%となっています。

## 2. 意識調査結果

### 【環境のために気をつけて行動していること】



### 5) 逗子市の将来の環境について

#### 【質問文 (問5)】

将来、こんな環境のまちになったらいいなと思うことについて、次の1～4の「A の考え方」と「B の考え方」のどちらが、あなたの考えに近いですか。どちらかに○ (マル) の印をつけてください。「どちらともいえない」ときは、真ん中に○の印をつけてください。

- 緑地やごみ問題、河川や海の整備の3項目については、いずれ「A の考え方」に近いという回答が大部分を占めていますが、マイカーの利用については、「A の考え方」と「B の考え方」で意見が分かれる結果となっています。

#### a) 緑地について

緑地について、A の考え方に近い (『緑が多く、静かなまちを守るため、自然を守るべきだ』) という回答が、70.9%であり、B の考え方に近い (『ルールは守りながら、家を増やすべきだ』) という回答の5.0%を大きく上回っています。

b) ごみ問題について

ごみ問題については、A の考え方に近い（『少しくらい面倒でも、ごみの分別やりサイクルは協力したい』）という回答が、74.1%であり、B の考え方に近い（『細かく分別するのは大変なので、ごみの処理はすべて市役所にやってほしい』）という回答の 4.8%を大きく上回っています。

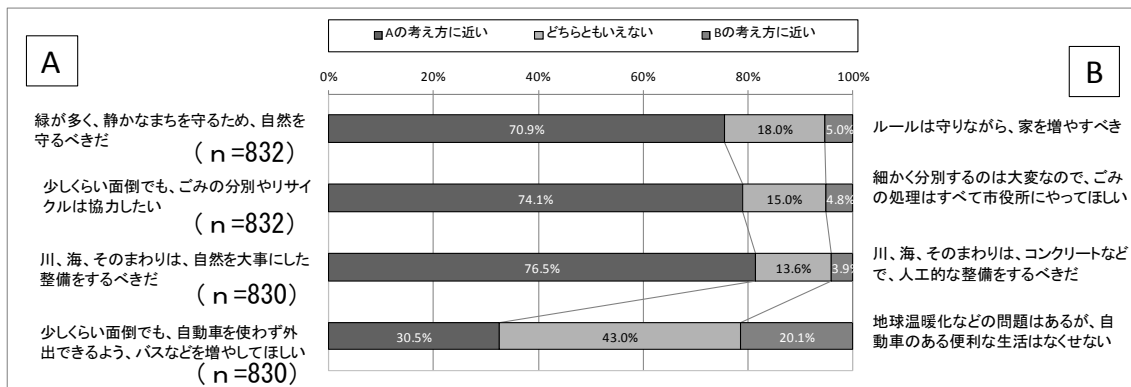
c) 河川や海の整備について

河川や海の整備については、A の考え方に近い（『川、海、そのまわりは、自然を大事にした整備をするべきだ』）という回答が、76.5%であり、B の考え方に近い（『川、海、そのまわりは、コンクリートなどで、人工的な整備をするべきだ』）という回答の 3.9%を大きく上回っています。

d) マイカーの利用について

マイカーの利用については、A の考え方に近い（『少しくらい面倒でも、自動車を使わず外出できるよう、バスなどを増やしてほしい』）という回答が、30.5%であり、B の考え方に近い（『地球温暖化などの問題はあるが、自動車のある便利な生活はなくせない』）という回答の 20.1%を上回っています。

【逗子市の将来の環境について】



### 3. 総括

#### (1) 市民意識調査

##### ① 市民の身近な環境の評価が向上

生活環境と自然環境の満足度が高く、都市環境への満足度がやや低くなる傾向がみられます。ただし、平成10年度調査結果と比べて、ほとんどの項目で環境への満足度は向上していますので、安全で健康な暮らしや豊かな自然環境の保全とともに、より快適な暮らしの創造が求められるようになってきたものと考えられます。

##### ② ごみ問題と省エネルギーへの関心の高まりが顕著

環境問題の認知度や関心度、日常生活における環境への取り組みなどに関する質問を通じて、ごみ問題及び省エネルギーへの関心が高くなっていることが分かります。

ごみ問題に関しては、過去から継続した課題として認識されており、省エネルギーについては、東日本大震災以降、重要な取り組み分野として関心が高まっている事項となっています。逗子市環境基本計画の改訂にあたっては、これらを重点的な取り組み分野として位置づけ、検討を行う必要があります。

##### ③ 積極的な環境情報の発信や意識啓発が必要

日常生活における環境への取り組みについては、ごみの減量やリサイクル、省エネルギーの実施率が高くなっており、意識の高さがうかがえます。ただし、取り組み項目によっては、「少しは実行している」や「気にしているが実行していない」も、一定程度みられることから、環境に配慮した取り組みの定着に向けた一層の意識啓発が望まれます。

省エネルギー型の設備・機器の導入に関しては、LED照明やペアガラス・二重窓の導入が比較的高く、そのほかの省エネルギー型機器の導入率は低くなっています。現状導入が進んでいない設備・機器については、今後、導入する意向が比較的多くなっていることから、積極的な情報提供等の推進により、導入が促進されることが期待されます。また、60歳以上の年齢層の市民は、若い年齢層と比べて導入意向がやや低くなる傾向があるため、設備・機器の導入検討に関する分かりやすい情報提供を行うことも効果的と考えられます。

一方、若い年齢層は、環境問題への認知度・関心度、日常生活における環境への取り組みに関する意識が低くなる傾向がみられますので、今後は特定の年齢層などを対象とした多面的な情報提供や意識啓発の手法について検討することも重要です。

例えば、若い年齢層では海岸の散乱ごみ問題や観光客やレジャー客のマナーに関する関心が高いとともに、かつ、改善すべき課題として重視していますので、これらの取り組みに関する情報の提供等を契機として、広く環境への関心や理解向上を図っていくような働きかけも想定されます。



#### ④ 地域全体へ環境への取り組みを広げることが重要

市民・行政・事業者の環境への取り組みのあり方に関する市民の意向として、省エネルギーやごみ問題をはじめとした環境問題への取り組みは、「各自が自主的かつ積極的に推進すべき」という考え方が支持されています。

これらの環境への取り組みを一層活性化させるためには、地域全体での取り組みへと展開・拡充させていく視点が重要であり、こうした取り組みの必要性について理解促進を図るとともに、実践的な取り組みの定着を推進していく必要があります。そこでは、環境に関心のある市民だけでなく、これまで環境の取り組みについてあまり積極的に関わってこなかった市民まで、広く意識啓発や情報発信を実施することが求められます。

### (2) 事業者意識調査

#### ① 中小事業者向けの情報提供等の支援の充実が望まれる

本調査では、比較的多くの事業者が、企業の社会的責任を認識し、環境活動を自主的な取り組みとして推進していますが、そこでは、企業イメージ・信用性の向上や従業員の意識向上を図るだけでなく、業務効率化によるコストの削減（省資源・省エネルギーの推進）といった事業活動上の実質的なメリットの確保も期待していることがうかがえます。

その一方で、環境活動推進の課題として、コストの問題が多く挙げられています。本調査において明らかになった事項として、再生可能エネルギーや省エネルギー型の設備・機器の導入率の低さや、地域環境活動の範囲が事業所周辺に限られていることなどが挙げられ、昨今の社会情勢等も相まって、こうした課題が事業活動と環境への取り組みを両立させる上での障壁となっていることが推察されます。

本調査の回答事業者は、比較的規模の小さい事業所が多く、現在実施している取り組みを更に拡充することは難しい状況にあることがうかがえます。これら中小事業者に対しては、市に対して望まれている支援内容（リサイクルやクリーンエネルギーへの転換などに関する支援や環境情報提供の充実化など）について検討するとともに、現在の事業規模の中で実行可能な取り組みに関する情報提供や支援方策等についても対応していく必要があります。

#### ② 事業者の環境活動への参加性を高めることが重要

市民・行政・事業者の環境への取り組みのあり方に関する市民の意向として、市民調査結果と同様、省エネルギーやごみ問題に関し、「各自が積極的に推進すべき」という考え方が支持されています。

本調査において、環境活動に取り組んでいる事業者は、全体の半数以上となっており、日常業務における環境活動として、廃棄物（ごみ）の減量やリサイクル、省エネルギー対策などの比較的取り組みやすい活動の実施率が高く、一定水準で定着していることがうかがえます。

### 3. 総括

逗子市内の事業者は、中小規模の事業所が多く、事業所当たりの環境負荷は、大規模な事業場などに比較すれば小さいですが、地域全体での環境活動を推進していくためには、事業者単位の日常業務における環境活動の推進が必要不可欠な要素となります。

事業規模や事業活動内容に対応した環境負荷の低減を推進するため、事業活動における負担をできるだけ軽減するとともに、継続した取り組みの定着を図っていくための支援等が今後、より重要となると考えられます。

#### (3) 小中学生意識調査

##### ① 身近な環境とふれあう機会の創出が求められる

小中学生の環境への意識としては、山の緑や動植物など自然環境に恵まれていると感じている一方で、身近な川や海や道路のごみなど、自然景観やまちの景観について気にしていることがうかがえます。

また、「水や空気をきれいにすること」への関心が高く、「川や水路などの水辺の清掃」に取り組みたいという意見が比較的多くみられます。これらの回答傾向から、子どもたちにとって、「水」とふれあう機会がそれほど多くないことが推察されますので、水辺における環境学習や環境活動の充実が望まれます。

##### ② 環境教育等の一層の推進が必要

本調査においては、子どもたちが日常的に環境に配慮した行動に気をつけていることが明らかになりました。特に、省エネルギーやごみの分別などの実施率が総じて高く、また、あまり実施率の高くない取り組みについては「これからしてみたい」という回答も多く挙げられていることから、意識の高さがうかがえます。家庭や学校生活の中で、環境に配慮した取り組みを実践し、定着させることができるよう、一層の環境教育の推進が望まれます。

**平成 25 年度  
逗子市環境基本計画の改訂に係る市民等意識調査」**

**平成 25 年 7 月**

**逗子市 環境都市部 環境管理課**

〒249-8686 神奈川県逗子市逗子 5-2-16

TEL : 046-873-1111 (代表) 内線 457

FAX : 046-873-4520

E-mail : [kankyou@city.zushi.kanagawa.jp](mailto:kankyou@city.zushi.kanagawa.jp)